

令和5年度 実践収録

# 龍文

～第32号～



創立者 遠藤董 記念碑

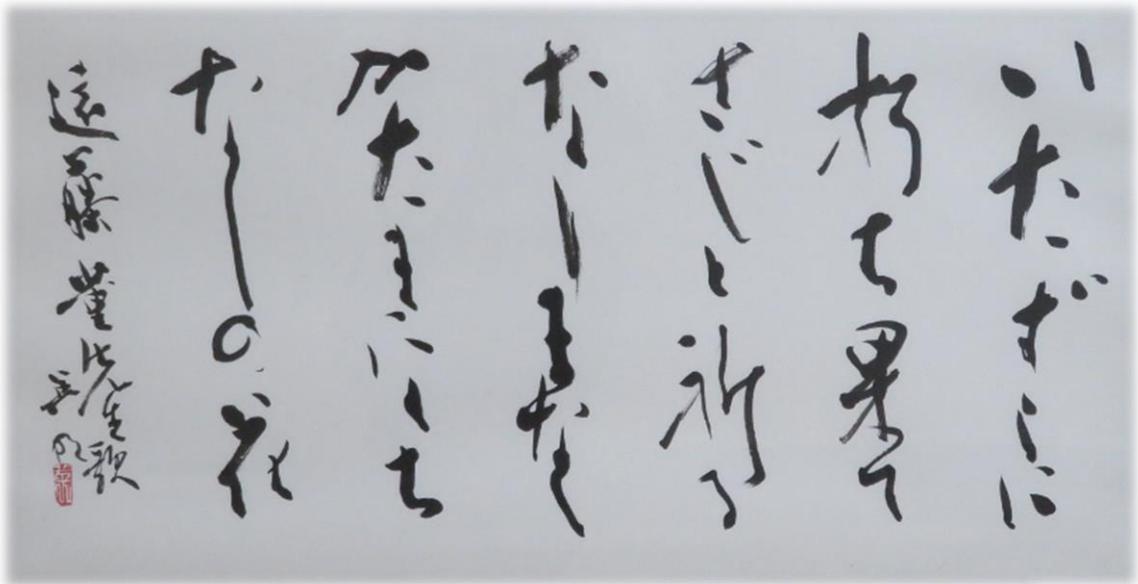


鳥取聾学校



ひまわり分校

鳥取県立鳥取聾学校・ひまわり分校



鳥取大学、住川英明先生の書作品  
※住川英明先生が『遠藤董先生の歌』を書き  
本校に寄贈していただいた作品です。

### 「龍文」について

校長室には明治時代を代表する書家、中村悟竹（本名 隆経）による扁額が掲げられている。読みは「りょうぶん」、意味するところは「将来有望なる子ども」である。文字どおり、子どもたちに寄せる限りない期待をこめ表題に引用した。

## 「龍文32号」発刊にあたって

学校長 秋田 易子

『You can do it! 君ならできる!』

『Let's enjoy パフォーマンス ～明るく(\*^o^\*)楽しく(\*^▽^\*)元気よく～』

『きらきらかがやくえがおいっぱい ころろをひとつに ひまわり11』

※本校・分校の運動会、学校祭、ひまわり発表会の児童生徒会スローガン

令和5年度、本校は創立113周年目、分校は創立29周年目を迎えました。子どもの人数は本校25名（幼5・小4・中5・高11）、分校11名（幼6・小5）です。

5月に新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことを契機に、他校との交流や校外での活動が一気に進みました。コロナ禍に蓄えていたエネルギーが一気に溢れ出し、一人一人の活躍がまぶしい躍動的な1年となりました。子どもたちの考えたスローガンには“おそれずに挑戦してみよう”“明るく前に進もう”“学校生活を自分たちで考えて楽しもう”そんな気持ちが伝わってきます。学校祭ステージ発表の生徒会主催「Let's enjoy パフォーマンス」では学校を自分たちの手で創っていきたい、そういった姿を垣間見ることとなりました。異年齢での協働や自治力の芽が育ちつつあります。これからこの芽がすくすく伸びて葉が繁り、大きく根を張っていくのが待ち遠しいです。

そして、令和5年度は、『鳥取県手話言語条例』制定10周年記念と第10回全国高校生手話パフォーマンス甲子園大会記念大会という大きな節目の年でもありました。本校・分校ともに全校をあげて県の事業とタイアップして、鳥髷らしさをアピールしました。

●本校高等部1・2年チーム予選突破！本大会出場

『過去と現在、そしてこれから～コミュニケーションの见えない壁～（演劇）』

鳥髷の先輩方にインタビューし、手話言語条例が制定されるまでの思い、制定の喜びとその後の取り組みを8分間の劇にまとめました。互いの考えを認め合い信頼し合えるチームに高まっていったことが何よりの収穫でした。

●手話チャレキッズ！本大会で素晴らしいステージ発表！！

本校の小学部全員が、宮ノ下小学校手話クラブの友だちと一緒に挑戦。手話パフォーマンスの南先生・高木先生に教えていただき、手話歌と手話劇風パフォーマンス「ふるさと」を見事に演じました。夏休み前からの長い練習期間でしたが最後までやりぬきました。

●手話のWAダンス『WAになっておどろう』

本校有志、分校小学部全員が『WAになっておどろう』に合わせて楽しくダンス。北村仁さんの本格的な手話ダンスに負けないくらいのはじける笑顔とパワフルパフォーマンスで本番に臨みました。動画は全世界発信中！いつでもダンスを楽しめます。

また、中ろう体卓球大会鳥取大会、全髷体卓球大会（名古屋）、中ろう体陸上記録会（広島）、全髷体陸上大会（埼玉）、全国障がい者スポーツ大会鹿児島大会鳥取選手団として出場、湖山池さわやかマラソンなど、日頃の体育での授業や部活動での練習の成果を発揮して、大きな大会に参加することにも次々と挑戦。

さらに、写真部は全国レベルの大会に多数応募。茶道部は遠藤記念日で久しぶりの初釜やチャリティーお茶会への参加。鳥取市・国府町・八頭町の催しで手話パフォーマンス動画を紹介、高校生議会で知事に質問、分校全幼児児童による『米子手話まつり』での素晴らしい劇・太鼓発表等々、まだまだ数え切れないくらい多くの場で子どもたちが実に堂々としたパフォーマンスをやり遂げました。

子どもに負けないくらい先生方も頑張っています。その一端として中四国髷学校研究大会において本校幼稚部の取り組みを広く情報発信し、子どもたちの学びと育ちについて研究を深めました。このように令和5年度は、大きな『自信』と、さらなるステップアップのための勇気を与えてくれました。応援してくださった多くの皆様に感謝申し上げます。

『龍文』は、本校・ひまわり分校が取り組んだ今年1年間の教育活動の記録と実践研究の成果を記すものです。今年度の挑戦や子どもの姿が教えてくれることは、今後の聴覚障がい教育・研究に役立つものと信じています。御一読いただき、本校教育に一層の御理解と御支援を賜れば幸甚です。

目 次

<p>1 鳥取県立鳥取聾学校の教育 学校経営方針 … 1</p> <p>2 本校の取り組み</p> <p>(1) 年間行事</p> <p>・本校年間行事 … 2～3</p> <p>(2) 各分掌</p> <p>・教務部 … 4～5</p> <p>・教育研究部 … 6～7</p> <p>・自立活動部 … 8～9</p> <p>・生活安全部 … 10～11</p> <p>・総務部 … 12～13</p> <p>・情報部 … 14～15</p> <p>・進路指導部 … 16～17</p> <p>(3) 学部実践記録</p> <p>・幼稚部 … 18～19</p> <p>・小学部 … 20～21</p> <p>・中学部 … 22～23</p> <p>・高等部 … 24～25</p> <p>・支援部 … 26～27</p> <p>・事務部 … 28～29</p> <p>(4) 児童会・生徒会</p> <p>・児童会・生徒会 … 30</p> <p>(5) 各部活動</p> <p>・陸上部 … 31</p> <p>・卓球部 … 32</p> <p>・写真部 … 33</p> <p>・茶道部 … 34</p>	<p>3 ひまわり分校の取り組み</p> <p>(1) 年間行事</p> <p>・ひまわり分校年間行事… 35</p> <p>(2) 各分掌</p> <p>・総務部 … 36～37</p> <p>・教務部 … 38～39</p> <p>・キャリア教育 … 40～41</p> <p>・教育研究自立活動 … 42～43</p> <p>・健康安全教育 … 44～45</p> <p>(3) 各学部</p> <p>・幼稚部 … 46～47</p> <p>・小学部 … 48～49</p> <p>・中学部 … 50～51</p> <p>・支援部 … 52～53</p> <p>あとがき</p>
---	--

# 1 鳥取県立鳥取聾学校の教育

# 学校経営方針

## 【学校教育目標】

聴覚障がいのある幼児・児童・生徒一人一人の教育的ニーズに対応した適切な教育を行い、自立と社会参加に向けて豊かな心とたくましく生きる力を育てる。

## 【めざす学校像】

- 誰ひとり取り残さない
- 人が集う ○活力がある
- ・失敗をおそれず挑戦する
- ・きこえに応じた学びができる
- ・手話言語によるコミュニケーションを大切にする
- ・明日も来たいと思える

## 【めざす子ども像】

- 〔知〕 学び合う子
- 〔徳〕 かなえる子
- 〔体〕 やりぬく子

### 〈数値目標〉

「学校が楽しい」100%

## 【めざす教師像】

- 明朗 ○愛情
- 協調 ○寛容
- ・表情豊かに子どもと向き合う
- ・よさをみる・のばす
- ・支え合う・認め合う・高め合う
- ・利他の心「他によかれかし」
- ・子どもと共に育つ

## 【今年度の基本方針：めざす子ども像の具現化に向けて】

### 学び合う子

〈社会で生き抜く力を身につける〉

- ① 子どもたちが主役となり「わかる」「できる」「たのしい」と感じる授業・保育づくり
- ※ICT活用推進も

- ② きこえに応じた学びの充実

### 〈数値目標〉

- 「授業がよくわかる」90%
- 「授業がたのしい」90%

### かなえる子

〈こうなりたい自分・夢をもつ〉

- ③ 自分のきこえを知る  
～自立活動の充実 毎日 帯で～
- ④ 自分のよさを知り、のばす、夢に向かう取り組みの推進

### 〈数値目標〉

- 「自分にはよいところがある」100%
- 「自分には夢がある」90%

### やりぬく子

〈あきらめない体力・気力〉

- ⑤ からだを動かす楽しさを知り、からだづくりを生活に位置づける

### 〈数値目標〉

- 「自分のめあてをきめてからだづくりやスポーツに取り組んでいる」90%

## ⑥ 子どもと向き合う時間を充実するための業務改善

## 【基本方針の達成に向けた戦略】

- ★戦略1 進学・就労への全校体制バックアップ：進路指導部の復活、補習・職場体験等を計画的に適時実施
- ★戦略2 支援部の充実：乳幼児相談の充実・幼稚部へのつなぎ・通級担当の育成・センター的機能の推進
- ★戦略3 「地域と共にある鳥聾づくり」：戦略事業「ふるさとたんけん・探求プロジェクト」始動
- ★戦略4 学校運営協議会における「鳥取聾学校のあり方検討」のスタート
- ★戦略5 ろう教員を全学部へ配置：子どもたちとの共感、手話言語による職員間のコミュニケーションを推進
- ★戦略6 手話言語条例制定10周年に向けた取り組み（県・県教委事業との協働、学校独自の取り組み等）
- ★戦略7 子どもたちの自治力向上：子どもの思い・願いを生かしやり遂げる経験の積み重ねによる自治力育成
- ★戦略8 業務改善の推進：管理職・学部主事・部長のリード、スクラップ&ビルド、自己業務管理 等

チーム鳥聾・チームひまわりの合い言葉

共育 きょういく

## 2 本校の取り組み

# (1) 年 間 行 事

令和5年度鳥取県立鳥取聾学校本校年間行事予定表

4月		5月		6月		7月		8月		9月	
1	土	1	月	1	木	1	土	1	火	1	金
学年初休業(～4月10日)		給食C休み～2日 情報防災教育		眼科検診13:30		さんさん交流会					
2	日	2	火	2	金	2	日	2	水	2	土
		校外いきいきタイム(ク リーニング活動・中高 生徒会レク)		歯科検診13:15 (幼)読み聞かせ 英語検定				校務部会⑥			
3	月	3	水	3	土	3	月	3	木	3	日
職員会議①・学部会		憲法記念日				(幼小)チャレキング (中高)期末テスト		学部会			
4	火	4	木	4	日	4	火	4	金	4	月
職員会議②・校務部会①		みどりの日				(中高)期末テスト		中国オーディオロジ-夏季 研修会(岡山)		(幼小)チャレキング (中高)現場体験学習 校務部会⑦	
5	水	5	金	5	月	5	水	5	土	5	火
職員会議③・学部会 主事会 中ろう体実行委		こどもの日		(幼小)チャレキング 校務部会④		(中高)期末テスト (小)体験入学 校務部会⑤		写真部個展(仁風閣)～27		(中高)現場体験学習 学部会	
6	木	6	土	6	火	6	木	6	日	6	水
職員会議④・運営委員会① 防災防犯研修(着任者+α)				学部会 (小)絵本読み聞かせ		学部会				(中高)現場体験学習 運営委員会⑦	
7	金	7	日	7	水	7	金	7	月	7	木
職員会議⑤ 子どもを語る 会・医ケア研修(全体) 着任 研① 運動会実行委				学校運営協議会① 運営委員会④		(幼)七夕まつり 運営委員会⑤				(中高)現場体験学習	
8	土	8	月	8	木	8	土	8	火	8	金
		早朝ボランティア開始式【仮】								(中高)現場体験学習	
9	日	9	火	9	金	9	日	9	水	9	土
		着任研⑤		(小)仲間づくり交流会 漢字検定				自立活動全体研修(言語)			
10	月	10	水	10	土	10	月	10	木	10	日
前日準備・リハーサル 医ケア研修(幼)14:00～呼 吸器説明		避難訓練(火災) 校務部会③		医大との勉強会①(支援部)		創立記念日 補聴器点検(東神、補聴器 サ)		運営委員会⑥ 学校保健安全委員会①			
11	火	11	木	11	日	11	火	11	金	11	月
着任式・始業式・入学式 ひまわり着任式・始業式? 校務部会②		補聴器点検(中国補聴器セ) とっすり学習状況調査 学部会				就労促進セミナー		山の日		補聴器点検(東神、補聴器 サ)	
12	水	12	金	12	月	12	水	12	土	12	火
給食開始 ひまわり入学式? 学部会		運営委員会③		補聴器点検(東神) 個別 着任研⑦		(中)体験入学 (高)体験入学				(小)絵本読み聞かせ	
13	木	13	土	13	火	13	木	13	日	13	水
医ケア推進委員会①				医療的ケア時対応訓練		補聴器点検(中国補聴器セ)				職員会議⑩	
14	金	14	日	14	水	14	金	14	月	14	木
(幼)歓迎会 運営委員会②		障がい者スポーツ大会		職員会議⑧		(幼)読み聞かせ(中)3校交 流会 職員会議 手話ハフォ予選動画提出×切				補聴器点検(中国補聴器セ)	
15	土	15	月	15	木	15	土	15	火	15	金
		補聴器点検(東神、補聴器 サ) 着任研⑥								(幼)だんごづくり 前期 期	
16	日	16	火	16	金	16	日	16	水	16	土
				幼動物見学・博物館見学 学部研						末 懇 談	
17	月	17	水	17	土	17	月	17	木	17	日
補聴器点検(東神、補聴器 サ)		(高)中間テスト				海の日		寮宿舎開舎			
18	火	18	木	18	日	18	火	18	金	18	月
		(中高)中間テスト 心肺蘇生法研修				校内支援委員会①				敬老の日	
19	水	19	金	19	月	19	水	19	土	19	火
発育測定(1～4校時) 職員会議⑥		(中高)中間テスト 職員会議⑦		補聴器点検(補聴器サ) 学事訪問 読字力検定		中高 性に関する学習 (GT) (小)収穫祭 ST校内研修					
20	木	20	土	20	火	20	木	20	日	20	水
内科検診13:15 中ろう体実行委員会						給食終わり					
21	金	21	日	21	水	21	金	21	月	21	木
尿検査(幼)誕生会 PTA執行部会 着任研②				計画訪問 ST校内研修		終業式(*給食なし)		職員会議⑩10:00		福祉セミナー	
22	土	22	月	22	木	22	土	22	火	22	金
				自立活動勉強会							
23	日	23	火	23	金	23	日	23	水	23	土
				情報交流会(支)						秋分の日 手話ハフォリハ交流会	
24	月	24	水	24	土	24	月	24	木	24	日
心電図・X線撮影14:00		運動会総練習		ひまわり運動会		中ろう 体卓 球 準備 期間		始業式 給食C休み		手話ハフォ本大会	
25	火	25	木	25	日	25	火	25	金	25	月
						寮宿舎開舎 職員健康診断		給食始め 学部研			
26	水	26	金	26	月	26	水	26	土	26	火
耳鼻科検診13:30											
27	木	27	土	27	火	27	木	27	日	27	水
尿検査予備日 着任研④		運動会				手話ハフォ予選審査				ST校内研修	
28	金	28	日	28	水	28	金	28	月	28	木
PTA総会・参観日						手話ハフォ予選審査・発表 中ろう体卓球前日準備		ひまわり始業式?			
29	土	29	月	29	木	29	土	29	火	29	金
昭和の日		振替休業日		学校公開・学校説明会 (幼)誕生会		中ろう体卓球鳥取大会				避難訓練(地震)	
30	日	30	火	30	金	30	日	30	水	30	土
ひまわり参観日		プール掃除		学校公開・学校説明会		中ろう体卓球鳥取大会		避難訓練(不審者対応)		全ろう体陸上(熊谷)	
		31				31					
		水		(幼)誕生会 全体研究会・学部研		自立活動勉強会		木		(幼)誕生会	
14		20		22		14		6		20	
学年始休業日・・・10日間						夏季休業日(7月22日～8月23日 33日間)					

令和5年度鳥取県立鳥取聾学校本校年間行事予定表

10月		11月		12月		1月		2月		3月							
1	日	全ろう体陸上(熊谷)	1	水	高校生就職ガイダンス(GT) 校務部会⑨	1	金	(中高)期末テスト(幼)芋のお菓子づくり ひまわり計画訪問	1	月	元日	1	木	(卒)学年末テスト	1	金	運営委員会
2	月	(幼小)チャレンジ	2	木	盲ろう駅伝大会 学部会 給食C休み	2	土	県障がい者作品展示会(12/1~4)	2	火		2	金	(卒)学年末テスト(幼)読み聞かせ	2	土	
3	火		3	金	文化の日 全ろう体卓球(名古屋)	3	日		3	水		3	土	手話検定(1~3級)	3	日	
4	水	保健師との情報交換会(西部) 校務部会⑧	4	土	全ろう体卓球(名古屋)	4	月	補聴器点検(補聴器サ)	4	木		4	日		4	月	(幼)おわかれ会 補聴器点検(東神) 反省職員会⑪
5	木	学部会	5	日	全ろう体卓球(名古屋)	5	火	SCカウンセリング 自立活動勉強会	5	金		5	月		5	火	諸検査及び面接
6	金		6	月	(幼)チャレンジ 運営委員会⑥ 介護等体験	6	水	校務部会⑩	6	土		6	火	医ケア推進委員会②	6	水	
7	土		7	火	職員手話研修	7	木	学部会(中四ろう研発表)	7	日		7	水	校務部会⑫(小)体験入学・入学説明会	7	木	卒業式
8	日		8	水		8	金	(幼)読み聞かせ 運営委員会⑩(中四ろう研発表)	8	月	成人の日	8	木	学部会	8	金	
9	月	スポーツの日	9	木	補聴器点検(中国補聴器セ)	9	土		9	火	始業式 給食始め 校務部会⑪	9	金	運営委員会⑫	9	土	
10	火	運営委員会⑧	10	金	(幼)親子遠足	10	日		10	水	学部会 ひまわり始業式?	10	土		10	日	
11	水	(中高)中間テスト 校内支援委員会②	11	土	中ろう体陸上記録会(呉)	11	月		11	木	入学者募集説明会【仮】 補聴器点検(中国補聴器セ) 職員手話研修	11	日	建国記念の日	11	月	追検査 補聴器点検(補聴器サ) 在
12	木	(中高)中間テスト	12	日		12	火	SCカウンセリング 職員手話研修	12	金	運営委員会⑪	12	月	振替休日	12	火	職員会議⑬ 校生期
13	金	(中高)中間テスト 職員会議⑭	13	月	補聴器点検(東神、補聴器サ) 職員会議⑬	13	水	学部研(小)クリスマス会	13	土	大学共通テスト	13	火	校内支援委員会③	13	水	末 懇談
14	土	手話検定(4, 5級)	14	火	(小)絵本読み聞かせ	14	木	クリスマス会(支)	14	日	大学共通テスト	14	水	学部研	14	木	入学候補者発表 補聴器点検(中国補聴器セ)
15	日		15	水	修学旅行(高2)~17日	15	金	(幼)クリスマス会 職員会議⑭	15	月	補聴器点検(東神)	15	木		15	金	
16	月	補聴器点検(東神、補聴器サ)	16	木	やきいも大会(支)	16	土		16	火	(小)絵本読み聞かせ	16	金	職員会議⑮	16	土	
17	火	学部研	17	金	(幼)汽車ごっこ 学部研	17	日		17	水		17	土		17	日	
18	水		18	土		18	月	補聴器点検(東神)	18	木	学部研	18	日		18	月	
19	木	全日ろう研・全ろう長	19	日		19	火	SCカウンセリング	19	金	遠藤記念日行事 職員会議⑯	19	月		19	火	卒業
20	金	全日ろうP	20	月	学校公開・学校説明会(幼小)チャレンジ	20	水	中高 性に関する学習(GT)	20	土		20	火	補聴器点検(東神、補聴器サ)	20	水	生 期 末 懇談
21	土		21	火	ST校内研修	21	木	給食終わり	21	日		21	水	全体研究会(まとめ)	21	木	給食終わり
22	日		22	水	学校公開・学校説明会 学校運営協議会②	22	金	終業式(*給食なし)	22	月	補聴器点検(補聴器サ) 不登校対策研修or23日	22	木		22	金	修了式・離任式
23	月		23	木	勤労感謝の日	23	土		23	火	不登校対策研修or22日	23	金	天皇誕生日	23	土	
24	火		24	金	体験的学習活動等休業日	24	日		24	水	(中)体験入学	24	土		24	日	
25	水	学校祭りハーサル	25	土		25	月		25	木	学校運営協議会③	25	日		25	月	学年末休業(~3月31日)
26	木	全国障害者スポーツ大	26	日		26	火		26	金	(幼)読み聞かせ 漢字検定	26	月	(在)学年末テスト	26	火	主事会
27	金		27	月	計画訪問	27	水		27	土	参観日	27	火	(在)学年末テスト いじめ防止対策委員会13 ~14時	27	水	
28	土	学校祭 ひまわり発表会	28	火		28	木		28	日		28	水	(在)学年末テスト(幼)ひなまつり 校務部会⑬(3月分)	28	木	
29	日		29	水	(中高)期末テスト	29	金		29	月	振替休業日	29	木	交流給食? 学部会⑬(3月分)	29	金	
30	月	振替休業日	30	木	(中高)期末テスト	30	土		30	火	職員手話研修	30	日		30	土	
31	火		31	日		31	日		31	水	(卒)学年末テスト	31	日		31	日	
21		19		16		17		19		15							
										冬季休業日(12月23日~1月8日 17日間)				学年末休業日...9日間		203(在校生) 194(卒業生)	

## (2) 各 分 掌

# 教 務 部

## 1 目標

- (1) 各教科・各学部間の連絡調整を行い、学習活動や行事等を円滑に行う。
- (2) 各表簿や指導計画、個別の教育支援計画等の適切な運用と管理を行う。

## 2 主な活動内容

### ① 表簿

出席簿・指導要録・補助簿・通知表・個人ファイルの作成、点検、管理を行った。  
補助簿の回覧は無しとした。

### ② 教育課程

教育課程の編成、選択教科の履修希望調査（中高）を行った。  
次年度の教育課程については各学部主事にリードしてもらった。

### ③ 時間割

時間割の編成、時間割表の作成、補欠時間割の調整、特別教室使用割表の作成を行った。  
特別教室使用割表については、必要に応じて各管理担当に任せた。

### ④ 授業統計

電子出席簿入力、授業時数統計、行事・授業変更の連絡を行った。  
適時、時数統計をチェックし、不足を補うようにした。

### ⑤ 行事予定

年間・月間・週間の行事予定作成、週予定の日程の板書を行った。  
週予定（いわゆる週案）は無くして、月行事予定表を活用した。

### ⑥ 生活時程

生活時程表の作成を行った。

### ⑦ 教務規定

教務規定について、内容の検討・提案を行った。  
年度当初は昨年と同じものを提示したが、高等部主導のもと、一部改正を行った。

### ⑧ 生徒名簿

生徒名簿は作成しないことにした。（必要に応じて個人ファイルの閲覧にとどめる）

### ⑨ 教科用図書

児童生徒用教科書・教師用教科書・指導書の申請、管理を行った。  
その都度複数で点検する等、丁寧に業務を行った。また、教科書システムについては、生徒系フォルダを活用し、情報室PCで処理することにより不具合を回避した。

### ⑩ 年間指導計画

年間指導計画について様式の検討、記入表作成（PCフォルダ）、点検を行った。  
作成に当たっては教科会をもち、互いに見合う機会とした。また、将来導入される校務支援システムに関する情報を共有した。

### ⑪ 個別の教育支援計画

個別の教育支援計画について記入表の準備（PCフォルダ）、入力日程・ケース会議の設定（2期制）を行った。  
計画的に実施できた。

- ⑫ 入学者募集関係
  - 入学者募集に関する実施要領・必要書類の作成を行った。
  - ただし、願書受理、合格発表、開示受付、合格通知書、入学許可書発行については事務次長が、中学校との連絡については高等部主事が行うようにした。
  - 業務としては入学者募集委員会なので、移管を検討する。
- ⑬ 子どもを語る会
  - 子どもを語る会について資料様式の準備、会の進行（年間1回）を行った。
  - 春休み中に設定してあったが、この時は医ケア児の共通理解のみ行い、4月19日（水）職員会議終了後に行った。
- ⑭ 着任者研修
  - 研修会の日程調整を行った。
- ⑮ 職員会議
  - 昨年度より、主幹教諭に移管した。
- ⑯ 定期テスト
  - 定期テストについて実施計画（中・高）の作成・連絡調整を行った。
  - テストのあり方、日程縮小について、今後検討する。
- ⑰ 初任者研修
  - 会場校の準備等、業務としては主幹教諭との整理により、移管をした。
- ⑱ 庶務
  - 教育委員会等への書類作成を行った。
- ⑲ 授業変更
  - 授業変更を確認し、ホワイトボードへ記入した。
  - ボードをリニューアルし、紙媒体を掲示するようにした。ディスプレイ表示も検討したい。
- ⑳ 教科会
  - 担当教科の授業時間数を協議、確認を行った。
  - 年間指導計画の作成に当たり、教科会をもち、互いに見合う機会とした。
- ㉑ 学習指導要領
  - 学習指導要領の職員配布、管理を行った。
- ㉒ 儀式的行事・表彰
  - 儀式的行事の企画運営、表彰伝達の実施計画の提案と場の設定を行った。

4. 11（火）始業式・着任式、入学式	1. 9（火）3学期始業式
7. 21（金）1学期終業式	3. 1（金）卒業式総練習・表彰
8. 24（木）2学期始業式	3. 7（木）卒業・修了証書授与式
12. 22（金）2学期終業式	3. 22（金）修了式・離任式

### 3 成果と課題

授業や行事に関して各学部間の連絡調整を密に行ったり、毎月の出席簿点検と併せて、授業時数の状況を大まかに把握したりすることによって、各教科の授業時数は確保できた。また、年間指導計画の作成に当たり、中高等部では教科会をもち、互いに見合う機会を設定した。

ケース会議を計画的に実施しているが、個別の教育支援計画の目標や評価を随時、共通理解する流れについては今後の工夫が必要である。また、教科指導の充実を図るため、中高等部では年度途中や年度末にも教科会をもつことを検討したい。

# 教育研究部

## 1 目標

幼児・児童・生徒に豊かな心と、たくましく生きる力を育てるために、職員の指導力の向上を図り、聴覚障がい教育を中心とする特別支援教育の専門的な知識や技能の向上を図る。

## 2 主な活動内容

### (1) 実践研究推進・研究会運営

#### ① 全体研究会・学部研究会

全体の研究テーマに沿いながら各学部の課題に即したテーマを設定し、研究を進めた。

<全体研究会> 5月31日・・・今年度の研究の概要について

2月21日・・・今年度の研究のまとめ

<学部研究会> 毎月1回程度実施 (計13回)

学部	研究のテーマ
全体	子どもが主役となる授業づくり ～「わかる」「できる」を目指した授業や活動の工夫～
支援部	相談者が主役となる授業・活動づくり ～相談者（子ども・保護者・教師）が目標を意識して 実践しようとする姿を目指して～
幼稚部	子どもが主役となる授業づくり ～「つたえたい」「ききたい」思いをもって、 やりとりを楽しむ子どもを目指した活動・支援の工夫～
小学部	子どもが主役となる授業や活動の工夫～子どもの変容から学ぶ～
中学部	生徒の成長に繋げるための事前・事後学習の改善・工夫
高等部	主体的な学びを視点とした授業改善の取組

#### ② 第41回中国四国地区聾教育研究大会香川大会

12月7日・8日に香川県立聴覚支援学校にて開催された。本校は、第1分科会早期教育の発表担当のため、幼稚部2名が発表者として参加した。(他に教頭・主幹教諭も参加)

<早期教育発表に向けた取組>

期日	内容
7月6日 信州大学 庄司和史先生来校	・幼稚部参観と指導助言 ・講演「子どもが主役となる活動や授業づくり」 ～コミュニケーションをどのように育むか
11月9日 プレ発表	・当日を想定した発表 (参加:校長・教頭・主幹教諭・研究部長・研究主任・幼稚部)
11月29日 事前発表	・校内向けの発表 ※参加は希望者としたが、ほぼ全職員が参加し幼稚部の発表を共有できた。

#### ③ 参観ウィーク・一人1授業

毎年すべての教職員が授業を公開し、指導力の向上に努めている。今年度の試みとして、全校一斉ではなく学部ごとに参観ウィークを設け、同期間に「一人1授業」を実施するようにした。行事の兼ね合い等により、授業公開や参観の調整が難しいという課題があった。

#### ④ 鳥聾スタンダード

聴覚障がい教育の専門性向上を図る一環として、「鳥聾スタンダード（授業の工夫・配慮事項）」について、学部研究日に年3回各自でチェックした。最終チェックをする2月には、それぞれの教職員が鳥聾スタンダードで意識したことやもう少し配慮が必要なことの具体例を発表する機会を設け、学び合いにつながった。

### (2) 研修関係

#### ① 職員研修

着任者研修は校内の着任者と校外の幼稚園や小学校などから参加された教職員に、聴覚障がい教育の専門性の向上に向けた研修を計画し、実施した。7月には、信州大学の庄司和史先生にお越しいただき、各学部の授業参観と、指導・助言および講演をいただいた。また、12月には全体授業研究会（高等部普通科2年:歴史総合）を行い、ビデオ視聴・KJ法を用いて学部を越えて授業研究を深める機会を持った。アンケートの結果から、「研究会でビデオ録画を見る時間（20分程度）があつて良かった。」という意見があつた一方で、「実際の授業を参観できる人が多くなる日程を考えてほしい。」という意見もあり、今後全体授業研究会の持ち方について検討していきたい。

#### ② 研究会紹介・職員図書

外部からの研修会案内について、随時ノーツ掲示板を中心に教職員に知らせた。

### (3) 検査関係

発達検査などについて手続きの手順を示すとともに、所在が分かりにくかつた用紙や器具の整理を行い、管理しやすい環境作りを行った。

## 3 成果と課題

今年度は、中四国聾教育研究大会香川大会の幼稚部発表を中心に行事を設定した。1学期には、信州大学庄司和史先生の講演の機会を持ち、ことばの発達とそれを支えるための大人の関わりについて実際の指導動画を視聴しながら具体的に学ぶことができた。また、12月には高等部の全体授業研究会を実施し、卒業を意識してどのような授業作りができるのかグループ討議を行い、短い時間ではありながらも有意義な時間を持つことができた。昨年度に引き続き、講演会や研究授業では情報部の協力を得て授業の様子や講師の先生の動画などをより視聴しやすい方法で情報提供することができた。次年度以降も、他分掌と協力して会を運営していきたい。今年度、講師の都合などもあり、会を急に設定することになってしまった。他分掌への協力依頼や見通しを持って研究に取り組むために、年度の早い時期に設定できるようにしていきたい。

方法を見直した参観ウイークと一人1授業については、研究のまとめに向けて12月までに実施すること、参観しやすい時期を考えることを意識して設定したい。

鳥聾スタンダードについては、日常的に活用する工夫として、年3回の振り返りだけでなく、一人1授業の指導案及び参観シート視点③にスタンダードで意識する視点について記述することを検討したい。

# 自立活動部

## 1 目標

幼児児童生徒の豊かな心とたくましく生きる力を育てるために、教職員の指導力の向上を図り、自立活動を中心とした聴覚障がい教育に携わる教職員の専門性を高める。

## 2 主な活動内容

### (1) 自立活動支援コーディネーター

自立活動支援コーディネーターの活動は、今年度で2年目となった。学部や担任との連携が重要であるため、自立活動支援コーディネーターの役割や活動内容について、年度当初に、全体に対して丁寧に説明を行った。自立活動支援コーディネーターのサポート対象は主に担任であるので、担任の先生方に個別にアンケートを行い、サポートが必要な内容について確認し、ニーズに応じたサポートを行った。具体的には、自立活動の年間指導計画の内容について担任と共に考えたり、情報提供や教材提供を行ったり、ティームティーチングとして授業に参加したりした。

ニーズに合わせたサポートが十分にできているかについて、年度内に3回アンケートを行い、評価した。全体的に良い評価であった。特に、担任と連携をしっかりと取りながら、適宜相談ができることへの評価が高かった。課題点として、予定変更の連絡が十分でなかった点が挙がっており、連絡経路や、連絡する対象者を確認して改善を図った。

### (2) 言語・発音に関する各研修会の企画・運営

日 程	内 容
4月 7日 (金)	コミュニケーション手段について(着任研を兼ねる)
4月19日 (水)	本校の自立活動(資料及び映像による個人研修)
6月21日 (火)	自立活動勉強会
8月 2日 (水)	自立活動勉強会
8月 8日 (月)	聴覚障がい児の発音・発語指導の実際
8月 9日 (火)	聾学校の言語指導の実際
8月22日 (火)	聴覚障がいのある子どものセルフアボドガシーを高める授業の実際
12月 5日 (火)	自立活動勉強会

各学部の意見を集約の上、ニーズに応じた研修を計画・実施した。今年度も谷田育子先生(鳥取聾学校ひまわり分校教諭)、中井弘征先生(愛知淑徳大学非常勤講師)を講師に招聘した。加えて、池田康弘先生(岡山聾学校教諭)より、当事者の視点で「聴覚障がいのある子どものセルフアボドガシーを高める授業の実際」をテーマに講義していただいた。「自立活動勉強会」も去年に引き続き主催し、年3回行った。発音や言語に関する研修に加え、3回目の時には、各学部が取り組んでいる自立活動に関する情報交換の場を設定した。

また、着任者研修「本校の自立活動」では、自立活動部が作成した研修映像と研修資料による、個人研修を導入した。アンケートの結果、「自分の予定に合わせて研修できた」「何度も見直すことができ分かりやすかった」と、受講者全員から良い評価を受けた。本校が大切にしている専門性の継承にも寄与できる研修の形として、今後も継続し、他の研修資料の作成も進めていきたい。

### (3) 自立活動教材教具の整備・管理

年度当初、手話辞典及び季刊雑誌「聴覚障害」の購入希望の取りまとめ、発注、配布をした。加え

て、各教室に手話辞典を配布し、授業で手話を活用できる環境整備を行った。さらに、教材教具およびデータ教材の整理、管理方法の提案し、教材管理を行ってきた。自立活動部管理の教材教具は、職員が使いやすい場所に管理してあることもあり、活用された。データ教材については、年度当初に毎年啓発してはいるものの、活用は一部にとどまっていた。そのため、自立活動コーディネーターの授業記録の中で各学部の授業で使用している教材を紹介し、掲示板で紹介した上で、教材教具の借り方についても、再度周知を図った。

データ教材の整理方法について、今までデータ教材の保存フォルダ教材を年度別に分けていたが、昨年度の反省を踏まえて変更した。新しい形式として、自立活動の6区分にフォルダを分け、作成年度に関係なく保存していくことにし、周知した。

#### **(4) 自立活動年間指導計画及び自立活動段階表の確認・点検**

着任者研修を企画し、自立活動段階表、自立活動指導プログラムと併せて自立活動年間指導計画作成の手順に関する共通理解を図った。年間指導計画の作成に際の実態把握を行うツールとして活用されているが、活用方法や、作成をする時期の周知が不十分であったことが反省である。今後のさらなる活用につなげるために、周知方法や時期を再検討し、実行していく。

#### **(5) 自立活動指導プログラム**

自立活動指導プログラムを活用し始めて3年目を迎えたが、年度途中にアンケートを実施し、各学部の意見や感想を集約した結果、多くの先生方に活用されていた。さらに、各学部から意見を吸い上げ、追加や見直しが必要な箇所を修正・改善した。修正・改善した箇所は、聴覚障がいと他の障がいを併せ持つ子どもについての内容が多かった。今後も、学部の実態を踏まえた意見を聞きながら、さらに内容を充実させていきたい。

また、自立活動指導プログラムを教材フォルダと連携させ、どちらもより活用しやすくなるように改善を行った。指導の参考になる資料として、引き続き来年度以降も活用していく。

#### **(6) 中国教育オーディオロジー研究協議会の運営**

今年度も夏季研修会や冬季研修会に関しては、Zoomを使用したリモート研修会の形で実施した。夏季研修会では、午前と午後に分け、午前は柳澤幹人先生（大塚ろう学校）より「音楽を聴能から考える」に関しての講演があった。午後は「聴覚障がいの心理病理など当事者の立場から」について、宮城教育大学の松崎丈教授の2人に講演していただいた。冬期研修会では、「聴覚障害教育に求められるもの～発達障害・家庭連携・授業づくり・聴覚障害教育の視点から～」をテーマに独立行政法人国立特別支援教育総合研究所の山本晃先生による講演を受けた。これらの講演で得たことが教育現場で早速活かされることを期待している。

### **3 成果と課題**

「すぐに授業に生かせる」を目標に、自立活動の専門性向上のため、内容に幅を持たせた自立活動勉強会を実施したり、校外の講師を招いて研修を行ったりした。自立活動支援コーディネーターによる授業のサポートも円滑に進んでいる。また、指導に必要な教材の購入も行い、活用がされた。データ教材の整理については、教員が作成した自立活動の教材を蓄積していくように工夫しており、徐々に活用され始めている。他にも、自立活動の指導プログラムや段階表を、年間指導計画の作成や実施に活用しており、続けていきたい。今後も、本校の勤務歴の長短に関わらず、全ての教員が聴覚障がいに関わる自立活動を指導していけることを意識して、研修内容や講師の検討、教材の蓄積、段階表の活用や指導プログラムの見直し等を行っていく。

# 生活安全部

## 1 目標

- ・健康に関する理解を深め、自主的に心身の健康づくりを行う力を育てる。(学校保健)
- ・健康的な食生活への意識を高め、それを実践する力を育てる。(学校給食)
- ・安全に関する理解を深め、自主的に安全を確保し、緊急時も落ち着いて行動する力を育てる。
- ・生徒が規律を守り、思いやりのある学校生活を送れるよう環境を整備する。

## 2 主な活動内容

- ・学校保健計画、学校給食計画、学校安全計画をもとに幼児・児童・生徒の基本的な生活習慣の確立と食育の推進、安全に対する主体的な態度の育成を図る。
- ・健康な食生活について養護教諭、学校栄養職員、学級担任と連携し、学習したことをおたよりを通して家庭にも情報提供を行う。
- ・幼児・児童・生徒の心身の健康増進と体力づくりを促進するため外部講師を依頼し、体を作るための健康維持を意識した体づくりの習慣に取り組む。
- ・毎月、全職員で安全点検を行い、校内安全管理と安全指導を徹底して行う。
- ・学習環境を整備し、環境教育の推進に努める。

項目	内容	
保健	学校保健計画・保健指導、月ごとの保健目標、生活リズムチェック3回	
	健康診断	
	性に関する指導(11月)クローバー鳥取の方を招き、講演していただいた。	
	薬物乱用防止教室(12月)警察の方を招き、講義していただいた。	
		歯の衛生週間・歯磨き指導
給食	学校給食計画	
	給食週間(1月24日～1月30日)	
	学校栄養職員による食育指導の連絡調整と実施(年6回)	
	*白衣の管理(配布、回収、年度末クリーニング)	
	*月献立の印刷・配布	
	*掲示物・日々の食数管理	
	食物アレルギー対応(マニュアルの見直し)	
安全・防災	危機管理	非常変災時緊急連絡網作成
		心肺蘇生法講習会+熱中症・落雷(5月)
		医療的ケア緊急対応訓練(6月)
		不審者対応訓練(職員・幼児児童生徒)(8月) 警察の方を招き、指導を受けた。
	交通安全	交通安全指導、公共交通機関の利用について(年5回)
		マナーアップ(生徒指導)(9月)
		国府町交通安全協議会
		交通安全教室(9月、11月)
	避難訓練 防災研修	防火防災安全研修(4月)消防署の方を招き指導を受けた。
		火災避難訓練(5月)

項 目		内 容
		地震避難訓練（9月）
		防火防犯図・組織図作成
		引き渡しカード作成・管理
	安全管理	管理区域分担表・管理者名札作成
		安全点検（月1回）・校内巡視表作成
		通学路調査（4、5月）
学校保健・安全・給食計画作成		
生徒指導	児童・生徒指導（学習・生活態度、人間関係）	
	生徒心得作成	
	各種生徒証明・自転車通学関係	
	携帯電話管理指導	
	東部地区生徒指導連盟	
	不登校等 職員研修会（1月）	
	長期休業前 生徒研修会	
	休業前生活のしおり作成、休業前生活指導	
	カウンセリング	
環境	管理 （事務部と 連携）	掃除道具の確認・補充
		大掃除・ワックスがけ調整
		加湿器・空気清浄機・サーキュレーターの管理
		ダニアレルゲン検査（8月）
	環境衛生検 査	照度、空気検査（2月）
		プール水質検査（6月）
	プール水質管理	
T E A S（各学期1回）		
いじめ防止	いじめアンケート、実施と集約（年間14回）	

### 3 成果と課題

学校保健計画、学校安全計画、学校給食計画を基にした、健康で安全な生活習慣の徹底・健康維持を意識した体力づくりに、日常的に取り組んだ。緊急対応訓練や避難訓練では、緊急時のきこえにくい職員に対する情報保障のあり方についても検討し、今年度、初めてLINEを使った情報伝達に取り組んだ。よりよい対応について引き続き検討していく必要がある。

体力づくりについては、各学部で丈夫な体作りに具体的に取り組む計画を立て、外部講師を招いて体の動かし方についての指導を受けた。また、学習した内容と生活リズムチェックを便り等通じて家庭に情報提供した。

新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行後の対応に伴い、ランチルームの配置（人数・間隔等）を検討し、感染症対策をしつつ、楽しい給食時間となるように改善した。これからも教職員が共通理解をする中で必要な課題を学校全体で見つけ、より安全な学校生活を送れるよう取り組んでいきたい。



# 総務部

## 1 目標

(1) 学校内外の広報活動を推進し、本校教育の理解と啓発を図る。

## 2 主な活動内容

### (1) 広報・啓発活動

各種行事での幼児児童生徒の写真などを廊下に掲示し、各学部の活動の様子を知ったり、コミュニケーションをとるきっかけになったりと、良い影響があった。

また、行事案内や作成した手話ポスター等を校内や屋外掲示板に掲示をしたり、地域の公民館や青翔開智中学校・高等学校に手話ポスターを定期的に届けたりした。その他、各種刊行物や催し案内などを定期的に掲示したり、職員に回覧をしたりした。

本校の歴史が分かる資料や写真などを管理している「歴史の部屋」の管理について、陽射しによる色あせが目立ってきたため、保護対策として遮光カーテンを取り付けた。行事の『遠藤記念日』では、歴史の部屋で実際に資料などを見ながら本校の歴史に触れるよい機会になった。



手話ポスター

### (2) とりろうだよりの発行・龍文作成

年3回ひまわり分校と連携しながら、全体行事や各学部の活動の様子を掲載して発行した。学校行事の紹介を通して子どもたちの成長する姿やPTA活動を端的にお知らせできるよう編集し、保護者や関係諸機関に配布することができた。

龍文は、ひまわり分校と連携を取りながら本年度の「教育活動」についてまとめた。これまで関係諸機関に龍文のデータ配布による啓発を行っていたが、今回から学校HPに掲載して全体公開の方法をとり、幅広く閲覧できるようにした。



### (3) 校内行事関連業務

例年通り、創立記念日や遠藤記念日、表彰伝達式を行った。コロナが5類感染症へ移行したことにより全校一斉参加型の行事になり、開催に向けて、部員全員で協力しながら準備を進めてきた。

#### ① 創立記念日

本校は今年度で創立113周年を迎え、創立記念日に校長先生の講話を児童生徒と教職員全員で聴いた。創立にまつわるクイズを通して本校の歴史を振り返ったり、校章の意味について深く知ったりすることができた。



創立記念日

## ②遠藤記念日

遠藤記念日は、校長先生の講話を通して、本校創立者である遠藤董先生の功績を再確認し、感謝の気持ちを持ち続けながら、現在の自分を誇らしく生きていこうと約束した。そして、4年ぶりに実施した初釜を通して、遠藤先生の尊ばれた日本の文化の伝統文化や作法に触れる貴重な経験ができた。高等部3年生は卒業を前に、遠藤先生のレリーフ清掃と常忍寺（遠藤先生の菩提寺）訪問を行った。



遠藤記念日



寺参り

## 3 成果と課題

今年度も業務内容の変更があったが、部員同士で連携しながら効率よく事業を進めることを心掛けた。業務内容の検討や改善において特に掲示担当の負担が大きいことから各学部とも連携を取り、各学部の活動の様子分かる写真の準備や掲示の協力を依頼する対策を講じながら業務改善を行った。

成果としては、他の分掌の協力もいただいたり、事前の情報共有を徹底したりしたことによって様々な事業を円滑に実施することができた。課題としては、前年度の業務の引継ぎができる持続可能な分掌体制になっていないことが挙げられる。また、発行物の作成では、計画より時間を要した反省を受け、計画の見直しが必要となる。

次年度も部員同士での連携を大切にしながら、より効率的かつ建設的な事業を展開していきたい。

# 情報部

## 1 目標

- (1) ICT 教育の推進に向け、広く情報発信を行う。
- (2) ICT 機器等を活用して充実した教育活動が行えるよう、環境整備を行う。

## 2 主な活動内容

### (1) 情報機器の管理

#### ①タブレット端末の整備

本年度より、高等部では CYOD (Choose Your Own Device) 端末の導入をし、生徒に合わせた端末を各家庭で購入し、家庭と学校で活用する取り組みを始めた。本校では、これまでも慣れ親しんでおり、卒業後の活用も期待されることから、apple 社の iPad を採用した。鳥取県教育委員会より指定のあったセキュリティアプリケーション (CISCO 社 umbrella) を各端末にインストールすることで、生徒が学校でも家庭でも安全に使用できるセキュリティ体制をとっている。また、校内 Wi-Fi の使用ルール及び端末の利用ルールを利用開始前に生徒、家庭と確認するとともにこの機会を利用して、スマホ・タブレットの各家庭での使用の決まりについても、生徒と保護者が話ができるよう「わが家のスマホ・タブレット利用ルール」というワークシートを配付し、意識付けを行った。9 月より CYOD 端末の活用を本格的に開始したが、生徒一人一人が授業や学校生活で効果的に端末を用いている姿が見られる。

わが家のスマホ・タブレットルール	
年 名前 _____	
家庭で話し合い、スマホやタブレットの使用について今一度考えてみよう。	
スマホ ※ルールが必要な項目に✓を入れて、ルールを考えてみましょう。	
✓ 項目	
使用時間	平日 時以降、休日 時以降は使いません。 ----- その他ルール
使用条件 例) 宿題が終わるまで使わないなど	
アプリケーションについて 例) アプリをインストールする際は、相談します。	
課金について 例) 課金が必要な場合は勝手にせず、相談します。	
SNS の使用について	チェックした SNS 以外使いません <input type="checkbox"/> LINE <input type="checkbox"/> X <input type="checkbox"/> Instagram <input type="checkbox"/> facebook <input type="checkbox"/> TikTok <input type="checkbox"/> その他( ) その他ルール
SNS やメールのやりとりについて 例) 面識のない相手とはやり取りしません。	
その他	
その他	

#### ②職員情報端末の整備

本年度は、職員用に指導用 chromebook が 10 台配備された。本校は、CYOD 端末として iPad を採用しているため、chromebook との親和性に乏しく導入当初は、使用に戸惑いのある職員も多かったが、定期的に勉強会や事例紹介を行っていくことで、少しずつ活用する職員が増えてきている。

#### ③周辺機器の整備

本年度は、chromebook の導入に伴い、周辺機器の整備を行った。

## (2) 職員研修

教職員の授業や校務での ICT 活用の促進を目的として、定期的にお役立ち勉強会を行った。教職員からの問い合わせが多かった事項を中心に扱い、情報を共有していくことで、積極的に ICT を活用していこうという意欲につながっている。

## (3) 情報教育

### ①情報モラル研修

ICT 支援員の協力も得ながら、各学部で情報機器の使い方や情報モラルに関する学習を行った。ICT 支援員より指導に役立つ情報を提供していただき、充実した学習を行うことができた。また、中学部や高等部の生徒対象にスマホ・ケータイ安全教室も企画し、情報の集め方や発信の仕方など情報を正しく活用する力の育成をめざした。本研修では、NTT ドコモの講師よりリモートでスマートフォンや携帯電話を安全な使用に関する講義を受けたり、実際に鳥取県警察本部生活安全部少年・人身安全課より講師に来ていただき、インターネットを介した身近なトラブルについて事例紹介などの話を聞くことができた。



スマホ・ケータイ安全教室

### ②ICT 教育推進計画

令和5年度の ICT 教育推進計画を策定した。幼児・児童・生徒に身につけさせたい力をスキルの面とモラルの面に分けて示した。年間での目標を定めていくことで、行事や学習の中で計画に基づいた取り組みができた。校外いきいきタイムで、国府町内や雨滝を訪れた際は、端末を活用して写真を撮ったり、アプリケーションを活用してスライド作成を行ったりして、心に残ったことを作品にして表した。また、各学部の実態に応じて写真を撮る際のマナーや配慮点などモラル面の指導も行った。

## (4) ウェブ等での情報提供

ホームページの更新を定期的に行い、最新の情報や学習の様子が保護者等に周知できるようにした。また、ソーシャルメディアを活用した情報発信にも取り組み、YouTube を用いた手話の紹介動画の配信等も行った。今後も学校ホームページ、学校 YouTube の定期的な運用に努める。

## 3 成果と課題

ICT 支援員の協力も得て、円滑に業務の遂行ができた。今後は、ICT 教育の全体計画をより分かりやすいものにし、学校全体で同じ取り組みを計画的に行うことで、幼児・児童・生徒及び教職員のスキル向上をめざしていく。そのために必要な環境整備等も引き続き行っていく。

# 進路指導部

## 1 目標

- (1) 自らの将来の生き方への関心を深め、自己実現への意欲・態度を育てる。
- (2) 自らの希望・能力・適正等に応じた適切な進路観・職業観の育成を図る。

## 2 主な活動内容

項目	主な活動内容
進路指導	年間行事の企画・渉外・各種調査
	進学・就職対応の諸テスト（学力診断テスト・校外模試等）
	進路希望調査の実施
	進学指導（高校・大学見学、大学説明会など）
	先輩に学ぶ
研修	進学に関する研修
	職場・学校見学
	保護者研修会
	キャリア教育講演会 金沢大学 学校教育系 教授 武居 渡 先生
職場体験学習・現場体験学習	職場体験学習(中)・現場体験学習(高)の実施
進路開拓・フォローアップ	職場・大学等・卒業生の実態把握、事業所や上級学校等への訪問
キャリアパスポート	キャリアパスポートについて各学部で説明する。
就労促進セミナー	7月11日（火）10:00～12:00 福祉人材センター
東部地区福祉セミナー	9月21日（木）10:00～12:00 福祉人材センター
キャリア教育全体計画	キャリア教育全体計画・進路指導年間計画の作成
進路だよりの作成	進路だよりの原稿を各学部主事の先生に依頼する。

### (1) 職場・学校見学

生徒・職員・保護者のニーズに応じた見学先を考え、鳥取短期大学と愛ファクトリー株式会社とユーシー産業株式会社の見学を実施した。短期大学ではいろいろな施設を見学したり、工場では近くまで行って動いている機械や働いておられる方を見学したりすることが



できたので、良い体験学習となった。生徒は、短期大学への進学に向けて頑張りたいという気持ちを持ったり、工場についての説明を聞いて製造業に興味を持ったりすることができた。

### (2) 職場体験学習・現場体験学習

中学部の職場体験や高等部の現場体験学習は、生徒や保護者、担任の考えを聞きながら、実習先を決定した。今年度もたくさんの企業や事業所にお世話になり、実習することができた。生徒たちは、自分が得意なことや苦手なことに気付いたり、仕事に対する適性や厳しさを学んだりすることができた。



本年度はトヨタ自動車株式会社のインターンシップに高等部生徒2名が参加した。最新の自動車産業・技術について見学をし、説明を聞き、実際に工場で部品の一部を作る体験をした。

### (3) 先輩に学ぶ会

2月に本校の卒業生に来ていただき、講演会を実施した。中学部から高等部の生徒が参加し、現在の仕事や生活の様子について聞き、仕事をする上でコミュニケーションが大切であると学んだ。

### (4) 保護者研修会

就業・生活支援センターしらはまの方に来ていただき、「障がい者の就労支援について」センターの事業内容や「障がい者就業（支援）について～働くために必要なこと～」について御講演をしていただいた。就職を目指して基本的なルールや対人技能態度、作業遂行力などを身につけておくことが大事であることと、就労準備性ピラミッドの土台となる健康・体調管理がとても大切だと学んだ。



### (5) キャリア教育研修会

金沢大学教授 武居 渡 先生に「キャリア教育の充実を目指して」のテーマで、講演をしていただいた。学力や言語力の基盤となる非認知能力についてそれらを構成する下位能力（例えば自尊感情や批判的思考能力など）を子どもたちに身につけさせる方法について具体的に教えていただいた。講演内容は、これから授業実践できる内容で、大変好評であった。



### (6) 卒業生のフォローアップ

令和2年度と3年度の卒業生のフォローアップを実施した。それぞれの卒業生が頑張っている様子について、進路だより等で紹介した。

### (7) キャリアパスポート

各学部で行事ごとまたは、学期初めやまとめなどで記入し取り組んでいる。様式にとらわれず、振り返りになるものや使用したワークシートをファイルに綴じた。特に、中学部で進路学習や行事ごとに振り返りをし、記録をファイルに綴じて活用できるようにしている。

## 3 成果と課題

今後の改善点として、進路指導が学部ごとに偏ることなく、キャリア教育の視点から、他学部との連携を図ることができるよう、他学部の研修会や話し合いなどに参加したり、進路に関する話題を今以上に発信・提供したりしたい。

また、保護者研修会を来年度も実施し、幼児児童生徒の将来の進路について見通しを持ったり、一緒に考えたりする機会を設ける。

将来の就労に向けて、「自分から行動する生徒」や「周囲とのコミュニケーションを大切にする生徒」の育成を目指し、生徒自らが進路を拓いていくことができるよう、職場開拓をしたり、情報を提供・発信したりしていく。

今後も、生徒・職員・保護者のニーズに応じた職場見学先や体験先を考え、職場・学校見学や職場体験学習・現場体験学習を実施していく。

### (3) 各 学 部

## 幼稚部

### ～みんなで行きたいな・みんなに伝えたいな～

#### 1 めざす子ども像

- のびのびと自分の思いを伝える子ども
- 友だち大好きかかわる子ども
- いきいきと遊ぶ元気な子ども

#### 2 主な活動

##### (1) 学び合う子プロジェクト

手話やキューサイン、身振り等を使って、のびのびと自分の思いを伝えようとする子どもの姿をねらい、体験的な活動ができる機会を設定し、それをきっかけとして言葉のイメージを広げるようにした。また、身近な事象への興味や関心を育て、思いを表現しようとする心情を育むことを意識して取り組んだ。その際、学部の全職員で、一人一人の子どものコミュニケーション手段や今身に付けたいやりとりのねらいや支援について話し合い、共通理解をして進めていくようにした。

「動物見学・博物館見学」やだんごづくりなどの行事では、事前・事後学習に重点を置いて取り組んだ。事前学習では、絵本の読み聞かせを行ったり、繰り返し言葉を確認しながら準備活動をしたりした。さらに、学校で使った教材を持ち帰り、親子でやりとりをしながら準備ができるようにするなど、家庭との連携を図った。事後学習では、活動を体験で終わらせず、言語活動につなげることの重要性を再確認し、がんばったことなど気持ちを表す言葉を使いながら発表する場面を設けたり、絵と文でまとめたりするようにした。行事の写真の横には、活動の様子を短い文で書き、家庭でのやりとりにつなげるようにした。



学部合同の活動では、友だちや教師と相談する場面を意識して設けるようにした。「汽車ごっこ」の活動では、駅の遊び場や担当する役を決める際、みんなで相談して決めるようにした。相談場面では、安心して自分の思いを表現できるよう、子どもの思いを受け止めたり思いを引き出すような声かけをしたりするようにした。今までの経験を思い出しながら、のびのびと自分の思いを表現する姿が見られた。このように相談して決めていく体験を繰り返す中で、自分の思いを伝えるだけでなく、相手の思いを聞いて考えようとするなど、少しずつ最後まで相手の話を聞こうとする姿が見られるようになった。



他にも、思いを表現する機会を確保するため、学部合同活動である「なかよしタイム」の終わりに楽しかったことやがんばったことを発表する場面を設けた。回数を重ねることで伝えたい思いが高まった。発表前に、教師と発表内容を相談する時間を設け、手話や発声など一人一人に合わせたコミュニケーション手段で発表練習を行った。理由を付けて話すなど、詳しく伝えようとする姿につながった。相手の話に関心をもってきくことができはじめた後期には、合同朝の会での絵日記発表や発表場面で質問をする機会を設けた。回数を重ねる中で、質問したい事柄に広がりが見られた。



## (2) かなえる子プロジェクト

友だちと一緒に遊ぶ中で安心感を持ち、満足感や達成感を味わい、人間関係の基礎を形成することをねらい取組を行った。そのために、子どもの思いを橋渡ししながら関わり、安心できる環境を作ると共に、一緒に遊ぶ良さを感じられるようにした。昼休憩などに、どこで何をして遊ぶのか、どのように遊ぶのか相談することにも継続して取り組んだ。始めは教師の橋渡しが必要だったが、次第に子ども同士で相談しようとするが増え、相手の思いをたずねたり、「〇〇するのはどう？」と提案したりする姿も見られ始めた。遊びが決まると、笑顔で時間いっぱい友だちと遊んだ。



また、係活動などで自分の役割を果たす喜びを感じられるように、給食当番や各クラスでの暦・天気係などの当番活動に取り組んだ。子どもたちは、意欲的に取り組み、役割を果たす喜びを感じた。

## (3) やりぬく子プロジェクト

いろいろな遊びや活動の中で、自分から進んで参加し、のびのびと体を動かす姿をめざして取組を行った。年間6回、外部講師を招いて「チャレキング」を行った。毎回少しずつ内容を変化させながら、様々な動きに挑戦した。また、自立活動の時間である「おはようタイム」の中で、教師の動きをよく見て合わせて体を動かす活動を継続した。左右や関節の曲げ伸ばしを意識しながら、動きをまねすることができるようになった。教師役を子どもも担当することで、喜んで体の動きを表現した。

遊びの活動では様々な体を動かす遊びに取り組んだ。「座りおに」「氷おに」「色おに」などのおにごっこ、運動会に合わせて行ったりレーごっこ、水遊びや雪遊びなど、どの遊びでも友だちや教師を誘い、のびのびと体を動かすことができた。また、「長縄を〇回跳びたい」「逆上がりができるようになりたい」「太鼓橋に上ってみよう」など、自分なりのめあてをもって取り組む姿を認め、体を支えたり、体を動かすポイントを伝えたりするなどの支援を行った。できるようになることで達成感を感じ、新しいめあてをもって取り組もうとする姿が見られた。



## 3 成果と課題

個々の子どものやりとりのねらいについて共通理解を行い、継続して相談する場面を設定したり活動の場面場面で、子どもの思いや行動を言語化したりしたことで、自信をもって発表する姿につながった。子どもたちが相手に思いが伝わるうれしさを感じることで、伝え合おうとする気持ちの育ちが見られた。手話やキューサイン、身振り等、自分のコミュニケーション手段を用いながら自分の思いを伝えようとするだけでなく、相手のコミュニケーション手段に合わせて伝えようとする姿も見られ、子ども同士でやりとりする場面が増えた。今後も個々の子どもの実態、集団の実態に合わせながら継続して取り組んでいきたい。

また、どの子どもも友だちが大好きで、友だちと一緒に活動すること、体を動かして遊ぶことの楽しさを味わった。自分から友だちを誘って遊ぶことや友だちと何をして遊ぶのか相談することも子ども同士でできるようになってきた。まだ、思いがすれ違ったときに相手の伝えたい内容を理解したり、相手にわかるように自分の思いを伝えたりするのは難しいことも多い。今後も、教師が、場面を捉えて、思いをどのように表現するのか伝えたり、相手の言葉を橋渡しして思いを理解できるようにしたりすることを続けていく必要がある。

# 小学部

## ～レッツ・チャレンジ～

### 1 めざす子ども像

- お互いに関わり合い、ともに学び合う児童
- 友だちを大切にし、自分が好きと感じる児童
- 目標にむかって、挑戦する児童

### 2 主な活動内容

#### (1) 学び合う子プロジェクト

お互いに関わり合い、ともに学び合う児童を育てるために、五感を使って語彙を獲得するための適切な支援を工夫したり、獲得した語彙を使って伝え合う場面を設定したり、ICT 機器を学習場面で積極的に活用する機会を設けたりした。



#### (2) かなえる子プロジェクト

友だちを大切に自分が好きと感じる児童を育てるために、各教科等において自立活動の視点を大切にし、学習を振り返る機会を設定したり、その積み重ねを記録（ワークシート、作文、写真、絵等）に残したり、身体づくり運動やダンス、仲間づくり交流会、交流及び共同学習の機会の設定等、様々な体験的学習の充実を図ったりした。



#### (3) やりぬく子プロジェクト

目標にむかって挑戦する児童を育てるために、児童の実態に応じた素材やテーマを準備して作品作りに臨んだり、挑戦できそうなコンクールや検定を児童や保護者に紹介して授業と関連させたりしながら取り組んだ。また、学校間交流として、近隣の宮ノ下小学校手話クラブの児童と一緒に手話パフォーマンス甲子園のイベント出場に向けて一緒に練習したり参加したりした。



#### (4) オリジナルプロジェクト

チャレンジ村と題して、学級園での野菜栽培と収穫、調理活動に取り組んだ。



### 3 成果と課題

語彙不足や自分の考えをまとめきれないなどの課題はありながらも、獲得した語彙を使って児童同士が意見や思いを伝え合う場面を意図的に設定したり、席位置を馬蹄形に設定するなど環境を調整したりするなど指導や支援を工夫することにより、自分の意見を積極的に伝えようとする姿が育っている。

1年生が入学し、最初はお互いに恥ずかしがって教師を介して友だちの様子を知ろうとしていたが、新入生歓迎会や運動会、仲間づくり交流会、学校祭など、学部全体での活動を通してお互いに声をかけあったり、気にかけてたり、友だちを意識した関わりが増えたり、いろいろなことに興味関心を持つたりする様子が見られる。

児童の実態に応じて作品展や検定に挑戦した。頑張った成果が賞に繋がることでモチベーションがあがることはもちろんであるが、コンクール等への出品や検定挑戦ということそのものが学習意欲の高まりにつながっている。また、学級園での夏野菜栽培で、教師と相談しながら何を栽培するのか決め、水やりや草取りなど日々の当番活動に取り組んだ。各クラスで育てた野菜を持ち寄り、みんなで協力しながら収穫祭でピザ作りを行った。一人では難しいと感じてあきらめがちであっても、友だちがしている様子を見たり、友だちに誘ってもらったりすることで一緒にしてみようとする姿が見られるようになってきた。



## 中学部

### ～Let's Enjoy～

#### 1 めざす子ども像

- 自分の目標をもって学習に取り組む生徒
- 自分の良さを知り、相手の思いを受け止め、自分の思いを伝えることのできる生徒
- 基本的な生活習慣や学習に向かう基礎体力を身につけている生徒

#### 2 主な活動内容

##### (1) 学び合う子プロジェクト

保健委員会と図書委員会を設定し、月に1回活動日を設け、広報活動や当番活動の計画を行った。役割分担をしたり、相談しながら作業を進めたりする中で、自分の考えを相手に伝えたり、折り合いをつけて作業を進めたりできた。一つ一つの活動で、話し合ったり協力し合ったりする経験を増やし、よりよい学部や学校にしようと取り組むことができた。

鳥取養護学校・鳥取盲学校との三校交流会では、リモートで鳥取養護学校と交流した。お互いに理解が深まることをねらいに、事前にどのように話してもらえると、自分たちがわかりやすいかを伝えることや、使ってもらえるとよい簡単な手話を紹介すること等、楽しめる活動としてクイズやゲームを取り入れ計画した。子どもたちは相手を意識しながら、発表の練習を進め、当日も緊張はあったが楽しむことができた。

授業では振り返りの機会をもつようにして、学習にそれぞれが積極的に参加し、学習内容の定着につながるよう取り組んだ。授業のはじめに今日のめあてを提示し、振り返りを行ったり、小テスト等を実施したりすることにより、以前と比べ自分で成長が感じられるようになってきた。授業の流れがわかり、振り返りをする授業の定着がみられた。



##### (2) かなえる子プロジェクト

子どもの実態として、行事に向かうとき、見通しが持てないと消極的になりマイナスのイメージを持ってしまいがち。そのため、学校祭のステージ発表に向けては、前年度の様子ビデオを見て、見通しやイメージを持ち、学校祭の当日に保護者や来校者に伝えたい自分たちの姿を考えて制作した。1年生は中学部に入学して成長した姿や、職場見学で学んだこと、2年生は初めての職場体験学習で学んだことをテーマにした。発表の内容や、表現するときの工夫として手話を調べたり、小道具を準備したり担任と一緒に工夫して準備した。発表をよりよくしていこうとする中で、生徒同士お互いのよさを伝え合う姿が見られ、他者の理解につながった。緊張の中当日をむかえ、達成感を味わうことができた。



職場体験学習では、職場の担当者から評価してもらうことで、自分の良さや課題に気づくことができ、学校生活の中でどのようにいかしていくか考えることができた。職場・施設見学では将来の仕事に向けてイメージを少しずつ広げることができた。前期に体験した職場見学、職場体験学習をそれぞれ、後期は進路学習につなげ、高等部や社会への進路について理解が深まるよう進めた。キャリアパスポートを活用し生徒自身が自分の成長を実感できるように振り返りを行った。

### (3) やりぬく子プロジェクト

中国地区ろう学校体育大会（卓球大会・陸上大会）に向けて部活動に日々取り組むことができた。初めて試合を経験し、改めて先輩に憧れをもち、来年度の大会の目標を設定する姿が見られた。部活動の時間を確保し、練習を積み重ねていける環境を整えていきたい。

スマートフォンやゲーム等の利用時間が長くなることで、家庭生活のリズムが整いにくく、家庭学習や睡眠時間の確保ができず、翌日に影響する場合があった。「スマホ・ケータイ安全教室」を実施することでネット依存の基礎を学ぶことができ、自分を振り返る機会となった。LINEの使い方等ルールを守ろうとする姿も見られた。今後も研修の機会を作り情報モラルの意識向上につなげていきたい。また家庭学習が定着するよう、宿題の内容や出し方の工夫をし、丁寧に声かけをすることで積み重ねができるよう取り組んだ。継続して声かけや宿題の工夫に取り組んでいきたい。



### (4) オリジナルプロジェクト

自分や仲間のいいところを見つける活動を実施した。昨年度に引き続き、生徒自身が自分の良いところに気づけるように、お互いによかったことを見つけ、廊下の木に付箋で貼り付ける活動をした。また、キャリアパスポートを活用し、行事等に取り組む前と後の自分の成長を振り返り、結果だけでなく途中の取り組みが大切なことを実感できるようにした。

## 3 成果と課題

見通しを持って学習や行事に取り組むことで、積極的な気持ちになったり意欲がもてたりすると考え、事前の準備やその都度の振り返りをしながら進めることに取り組んできた。結果として入学してきた1年生は目標を持ち安心して、学習や行事に向かえる環境を整えることができた。しかし今後学部が進んだり社会に出たりすることを考えると、見通しがもてない新しいことに挑戦したり、予想しない失敗を経験したりした時に、立ち向かったり立ち直ったりする力が必要になってくる。様々な経験を重ねていかなければならないが、限られた時間の中で、教員の失敗も含めた経験談を話す機会や、子どもたちがよりよくしていこうと計画・実行できるような学部の行事を考えていきたい。



# 高等部

## ～一期一会～

### 1 めざす子ども像

- 進路実現に向けて自主的に学び、家庭学習に取り組む生徒
- 他者と良好な関係を築きながら生活し、社会参加に向けた態度を心がける生徒
- 健康に留意するとともに、好ましい生活習慣を身につけている生徒

### 2 主な活動内容

#### (1) 学び合う子プロジェクト

高等部では、進路実現や卒業後の生活を踏まえ、生徒が主体的に学校生活に関わり、自主的に学習に取り組む意欲や力が必要となる。挨拶や宿題・提出物に関して教師の促しが必要な生徒が多い実態から、生徒が自分事として生活習慣を改善しようとする意識付けが必要であると考え、生徒対象のアンケートを実施した。結果は次のとおりであり、生徒と共有するとともに充実した高校生活に向けた話し合いを各学級で行った。

質問	進んで挨拶をしていますか。	宿題に取り組み、締切までに提出していますか。	提出物やアンケートを締切までに提出・回答していますか。	授業以外で、iPad を使って学習したり調べたりしていますか。
回答	進んで挨拶している (54.5%)	締切までに提出 (27.3%)	締切までに提出/回答 (18.2%)	1日1回使う (54.5%)
	挨拶されたら返す (36.4%)	締切に遅れて提出 (63.6%)	促されて提出/回答 (72.7%)	1週間の半分は使う (18.2%)
	挨拶していない (9.1%)	宿題をしない (9.1%)	遅れて提出/回答 (9.1%)	1週間に1回程度使う (9.1%)
	—	—	—	ほとんど使っていない (18.2%)

学部研究のテーマを「主体的な学び」とし、授業改善に取り組んだ。月1回の学部研究会において、各教科・学科の授業改善の取組を紹介し合った。

教科・学科	取組内容
国語	丁寧な言葉の抑えと自分の言葉で表現する力を高める活動の充実
数学	実生活と数学を結び付ける学習テーマの設定と実態に応じた学習活動の工夫
英語	興味・関心を高める学習活動の設定とパフォーマンステストの取組
理科	振り返りシートを用いた理解度・つまづきの把握とスモールステップの指導
社会	ICTを活用し、自ら調べたり考えを共有したりする活動の充実〈全体授業研究会〉
保健	アンケートを活用し、自己の生活との関連を意識した授業の工夫
音楽	音楽に関する実態（聞こえ、感受性、巧緻性等）を踏まえた授業の工夫
産業工芸科	作業工程の見通しや技能の向上に役立てるためのメモの習慣・活用の取組
生活デザイン科	興味・関心や目的意識を高める学習活動の設定や展開の工夫

どの取組においても、生徒の強みや課題の実態把握を踏まえ、主体的な学びの実現に向けた検討や工夫を行った。教職員間で取組を共有することで、生徒の実態の深化や授業改善のヒントにつながった。

## (2) かなえる子プロジェクト

7月7日(金)に中学部と合同で職場・学校見学を行い、愛ファクトリー株式会社及びユーシー産業株式会社、鳥取短期大学を訪問した。働く様子や施設・設備を実際に見学することによって、見学先に興味を持ったり自己の適否について考えたりする生徒があった。9月4日(月)から8日(金)まで実施した1,2年生の現場体験学習では、生徒一人一人が、コミュニケーションをはじめ課題と感じていることにチャレンジし、自己理解が深まった。3年生は、進路希望先の学校見学・体験や地域の高校生との合同入試対策を行った。地域の高校生との合同入試対策は交流及び共同学習としても有意義であり、今後も幅広い機会を捉えて実施したい。



## (3) やりぬく子プロジェクト

SNS等、インターネットの適切な使用に関する注意喚起とスキルアップを目的とし、情報モラルに関する学習を2回実施した(6月、7月)。生徒の携帯電話・スマートフォンの使用状況に関する事前アンケートを実施し、少数ではあるがインターネットへの依存傾向も見受けられた。2回実施した学習はいずれも専門家を招き、具体的な事例を通じた講義・演習を行った。「個人情報やSNSに投稿しないようにしたい」「相手の心を傷つけるネガティブ発言をしないように気を付けたい」などの生徒の感想があり、SNSトラブルの危険性の理解や、情報モラルへの意識向上につながった。9月下旬には一人一台端末を配布し、各家庭で考えた使用上のルールを学校も共有するようにした。今後も、情報モラルに関して学んだことや家庭でのルールを定期的に振り返り、生徒の自己管理能力の向上に取り組みたい。



## (4) オリジナルプロジェクト

今年度も1,2年生が全国高校生手話パフォーマンス甲子園に挑戦した。4月からテーマや内容、パフォーマンスに関する話合いと練習を重ね、7月の予選を突破し、9月24日(日)の本選に出場した。生徒は、鳥取県手話言語条例制定から10年が経過したことを踏まえ、条例の意義や地域生活で感じることをシナリオに盛り込み、お互いの意見を交換しながらパフォーマンスを創り上げた。「自分の考えを伝えること」「相手の考えを受け止めること」「相手の良い所を見つけること」といった点で生徒は大きく成長し、その教育効果は高いと感じた。また、県外の高校生との交流や様々なパフォーマンスの鑑賞という点においても生徒の視野を広げる貴重な機会となった。教育課程上の位置付けや適切な時間数の配当など毎年度検討する事項はあるが、今後も継続して取り組みたい。



## 3 成果と課題

高等部の生徒は素直で真面目な一方で、人との関わりに苦手意識があり、教師の促しを受けて行動しがちな実態があった。今年度、新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、校外での活動や交流の機会が充実した。また、一つ一つの学習等において生徒が主体的に取り組めるよう指導・支援することで、生徒の意識が学校から地域へ、高校生活から卒業後の生活へと向かい、チャレンジする気持ちが高まってきた。時期によっては様々な行事が重なり、丁寧な準備や積み上げが難しかったという課題も残ったため、来年度に向けて改善を図りたい。今後も、生徒一人一人の能力を最大限に伸ばし、卒業後の進路実現と自立と社会参加につなげる教育活動の企画・実施に努めたい。

# 支援部

## めざせ！みんなの頼れるサポーター！！

### 1 めざすセンター的機能

- (1) 親子のかかわりを支援し、家庭と連携してきこえやことばの育ちを促す。(乳幼児教育相談)
- (2) 地域で学ぶ児童生徒が、自分のきこえやことばの障がいを理解し、自己認識を高められるよう指導や支援を行う。(通級指導)
- (3) 担任や保護者のニーズに合わせて、情報を提供し支援を行う。関係機関と情報交換をしたり、啓発を行ったりして連携を図る。(関係機関との連携)
- (4) 担任のニーズを把握し、児童生徒の課題を共有することで、適切な自立活動の内容や手立ての支援を行う。(地域の自立活動支援)

### 2 主な活動内容

#### (1) 乳幼児教育相談

就学前の乳幼児20名(きこえ14名、ことば6名)に対し、週1回から月1回程度定期相談を実施した。きこえの子どもの程度は軽度から重度まで様々、聴力以外の障がいを併せもつ子どもも複数いる。活動では、子どもと保護者が目と目を合わせてやりとりをする事を大切にしながら、親子が笑顔で関わり合うことができる遊びや活動を取り入れた。きこえやことばの育ちに関して資料提供や説明を行うことで、保護者が理解を深め、自分でも実践しようとする姿が見られた。ことばの相談は、主に5歳児を対象に中部にあるわくわく教室で相談を実施した。

#### ●プロジェクト① 合同活動の充実や他学部との連携を通して、保護者同士のつながりを広げる。

乳幼児教育相談全員を対象とした合同活動を2回、同年齢による合同活動を4回行った。本校の進路指導について知り、改めて進路を考えたり、難聴疑似体験を通してきこえにくさへの理解を深めたりする機会となった。また、保護者同士が交流してつながり合える良い機会となった。

#### (2) 学齢期教育相談

きこえとことばについての教育相談を実施した。きこえでは、学齢期になり軽度・中等度難聴と診断された3名の相談があった。また、新設の難聴学級からの相談や学びの場を選択するための相談が多かった。ことばでは、小学校・中学校・高等学校から吃音の相談が多かった。

#### ●プロジェクト② 研修パッケージを作成し、ホームページを活用し情報発信を行う。

難聴児が在籍する地域の学校が職員研修としていつでも活用できる「聴覚障がいの理解とその支援」「聴覚障がい児の言語指導」など4つの研修パッケージ(音声付きパワーポイント)を作成し、難聴学級新設の学校に紹介した。今後は、ホームページにより情報を発信する。

#### (3) 通級指導

児童・生徒を対象に、児童14名(きこえ6名、ことば8名)の通級指導を巡回の形態で実施した。毎時、始めに「お話タイム」を設け、生活の様子や困り感のあることを確認したり、聞き取ったりして、対処法を一緒に考えた。また、本時の活動(課題音・舌の動き、聞き分け等)を伝え、児童がめあてを決めることで、目標を意識して主体的に取り組む姿が見られた。難聴児の交流会(7月実施)への参加が少なかったため、きこえの通級に通う児童同士の手紙等による交流を進めた。保護者とは主に連絡帳を通してやりとりしたが、保護者、在籍校とよりよい情報交換ができるように機会を作る工夫が課題である。

#### (4) 関係機関との連携

##### ①保健師との情報交換

新生児聴覚スクリーニングリファーマ（要再検査）となった保護者に対する支援体制の充実を図るために、東部・中部・西部の各地区の保健師との情報交換会を一昨年度から実施している。今年度は市町村の担当から複数名参加する地区や、県の担当保健師、『きき』の職員の参加もあり関心の高さを伺うことができた。リファーマとなった当時の思いを綴った保護者の話を紹介し、実際の支援の難しさやさらなる連携の必要性について共通理解をすることができた。その後、会に参加した保健師より依頼を受け、鳥取市の保健師や赤ちゃん訪問担当の方を対象にきこえや早期支援について研修を行う機会につながった。

##### ②難聴学級担任との情報交換会

6月23日(金)に聴覚障がいのある児童生徒へのよりよい関わり方や今後の支援方法についての情報交換会を行った。当日は、東部・中部地区の難聴学級の先生方に対して自立活動の指導内容や教材について聾学校の様子を伝えたり、日ごろの様子を情報交換したりして、有意義な研修となった。また、Googleclassroomを運用し定期的に難聴学級の先生方への情報提供を行った。

##### ③さんさん交流会

7月1日(土)に地域の小学校に在籍する難聴学級の児童1名、きこえの通級指導教室(さんさん教室)の児童1名、本校児童2名と保護者5名が集まり、さんさん交流会を行った。児童は、「卓球バレー」等をして交流をした。友だちを大きな声で応援したり一緒に喜んだりして楽しくふれあうことができた。「卓球バレーがおもしろかった」「みんなでゲームをしたのが楽しかった」等の感想があった。保護者の方は、「最近の補聴器事情」「聴覚障がい児の進路」について研修をし、意見交換を行った。「補聴器の最新事情を聞いて、取り入れてみようと思った」「進路について参考になった」等の感想があった。

#### (5) 自立活動の支援

特別支援教育コーディネーターと連携を密に取りながら、活動を行った。情報交換会では、地域の学校に在籍する聴覚障がい児の自立活動に携わる教員を対象に、聴覚障がいの特性に応じた自立活動に関わる研修の場を提供したり、授業ですぐに使える教材とその使い方を紹介したりし、授業への活用も見られた。教育相談では、特別支援教育コーディネーターと共に地域の学校に訪問し、自立活動の学習内容や、各教科の授業での難聴児への支援について助言を行った。また、難聴学級の先生方と支援部のクラスルーム「きこえの部屋」を通して、教材の提供や情報提供を行った。

自立活動支援コーディネーターが、校内の自立活動支援や教科指導、乳幼児教育相談とも業務を兼ねており、教育相談の出張時間を捻出するのが難しかったため、活動に制限があり、支援できる学校数が限られた。来年度は、時間数の調整または時間割の調整をできると良い。時間数の調節ができれば、出前授業等にも取り組んでいきたい。

### 3 成果と課題

今年度は、センター的機能を担う支援部6名のうち4名が新任となった。昨年度より支援部に加わった自立活動コーディネーターや実践経験豊富な校内教員に学び、専門性を継承・維持しながら業務を遂行した。また、新体制の中、新しい視点でセンター的機能の現状と方策を検討し、自立活動コーディネーターと共に教育相談に出向き難聴学級の先生方をサポートするなど新しい取組を行った。

そして、乳幼児教育相談ではコロナ禍において希薄だった保護者同士のつながりの充実に努めたり、通級指導ではニーズに対して迅速に対応できるように入級までの校内システムを見直したりするなど改善を行うことができた。

本校のセンター的機能を理解啓発するためのリーフレットやホームページの情報が長期間更新されていない状況があるため、情報発信のためのツールを検討していきたい。

# 事務部

## 1 目標

- (1) 学校教育目標の達成に向けた様々な教育活動を支援する。
- (2) 安全安心に過ごすことができる学校教育環境を整備する。

## 2 主な活動内容（施設設備整備の状況・令和6年1月末現在）

### (1) 工事・営繕関係

工 事 名	工事費(千円)	工 期	業 者 名
特別教室棟ほか冷暖房設備改修工事	県契約	R5. 5. 18～R5. 9. 29	山陰冷暖設備（株）
屋内消火栓ポンプユニット更新工事	県契約	R5. 7. 3～R6. 1. 31	日本上下水道工業（株）
幼稚部中庭床シート補修工事	2 9 7	R5. 8. 1～R5. 8. 4	福上工業（株）
小学部中庭遊具撤去工事	2 6 4	R5. 9. 25～R5. 9. 26	東洋交通施設（株）
幼稚部屋外手洗場改修工事	2 6 4	R5. 7. 25～R5. 8. 9	国太建設（株）
(分校)特別教室棟屋上防水改修工事	県契約	R5. 6. 19～R5. 10. 31	(有) 真路工業
(分校)中庭遊具更新工事	3 8 0	R5. 7. 4～R5. 10. 31	(株) 橋尾スポーツ 米子支店

### (2) 物品関係（備品単価10万円以上）

事業名等	品 名	数量	購入額 (千円)	備 考
一般管理備品	スポットライト	1	1 3 2	本校
図書館図書	本校	—	5 0 0	
	分校	—	3 0 0	
寄 付 物 品	イオンギフトカード	イオンリテール（株）		
	図書カード	(社福) 鳥取市社会福祉協議会		
	行事用テント	(公財) 長谷育英奨学会		

## 3 成果と課題

物価高騰や厳しい県の財政運営が続く中、また、新型コロナウイルス感染症が5類感染症への移行により教育活動が正常化しつつある状況の中で、限りある学校予算を効果的に執行するため、費用対効果や優先順位を考慮しながら適時適所の対応に努めた。

今後も行政職員、現業職員としての専門性を発揮し、安全安心な学校教育環境の整備をはじめ、日々の教育活動や各種事業の円滑な実施をサポートしていきたい。

【参考】令和5年度予算の令達状況（令和6年1月末現在）

（単位：円）

予算主務課	科目名	金額	説明（主な事業）
教育総務課	事務局費	246,340	障がい者就労支援（ワークセンター）
社会教育課	社会教育総務費	78,500	放課後子ども教室
体育保健課	保健体育総務費	3,964,433	学校保健、学校給食、換気対策
人権教育課	教育振興費	100,650	人権教育推進支援
教育人材開発課	特別支援学校費	940,240	手話普及
小中学校課	教育連絡調整費	94,258	エキスパート教員
教育環境課	事務局費	5,137,000	光熱費価格高騰措置
	教育連絡調整費	15,000	高校裁量予算独自事業（米子高関係）
	教育財産管理費	2,528,040	教育施設営繕（一般営繕）
	特別支援学校管理費	25,632,900	学校裁量予算（学校運営費、指導充実費）
特別支援教育課	教育振興費	7,261,382	早朝子ども教室、地域支援、就学奨励費、通学支援、学校運営協議会
	特別支援学校費	5,915,000	手話で学ぶ教育環境整備事業、共生社会をめざす文化芸術・スポーツ活動推進事業
教育センター	事務局費	60,000	I C T環境整備（アプリ使用料）
	教育センター費	136,000	教職員研修旅費
県議会事務局	事務局費	5,080	高校生議会出席経費
合	計	52,114,823	（明許350,000円を含む）

## (4) 児童会・生徒会

# 児童会・生徒会

## 1 児童会活動

今年度は低学年の児童が中心であったため、活動の計画や運営は教員が行った。入学・進級を祝う会、クリスマス会など異年齢集団による活動に色々取り組み、児童が役割を分担しながら実施した。任された仕事を責任をもって取り組みながら、学年や学級が異なる児童と楽しく交流を図った。



入学・進級を祝う会



学校祭



クリスマス会

## 2 生徒会活動

生徒が自主的に運営することを目指して活動に取り組んだ。会長や副会長を中心に生徒会で話し合いをし、運動会や学校祭のスローガンの決定、運動会での幼稚部・小学部・中学部・高等部の交流演技案を考える活動等を行った。学校祭ステージ発表会では、昨年度イベントの時間に体育館で行っていたミニミニ発表会を進化させ、ステージ発表の時間に有志で得意なことを発表する機会を設けた。又、戦略事業として実施した全校遠足の中で、幼稚部から高等部までの子ども達が仲良くふれあえるいきいきタイムの運営をし、楽しい時間を過ごすことができた。

新型コロナウイルス感染症5類移行に伴い、行事の制限がなくなり活発に活動する機会が増えた。同時に、中国地区ろう学校体育大会をはじめ全国聾学校陸上大会や卓球大会など、県をまたぐ対外的な行事も増え、生徒も時間や気持ちに余裕がなく、相談や準備の時間を確保することが難しかった。今後、生徒が少しずつ減少して行く中、生徒会行事をどのように運営していくか検討が必要である。

中学部の委員会活動では司書教諭や図書館司書、養護教諭の指導のもと、掲示物の作成や学校祭で読み聞かせ活動などを行った。



全校遠足



運動会 生徒会種目「You can do it!」



学校祭 生徒会有志 「Let's enjoy パフォーマンス」



## (5) 部 活 動

# 陸上部

## 1 目標

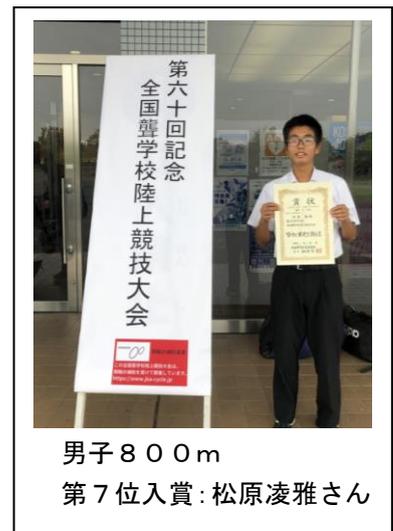
基礎体力の向上と自己の記録更新を目指し、継続して練習に取り組む。

## 2 主な活動内容

今年度の陸上部員は、高等部男子5名、中学部女子1名の計6名で活動に取り組んだ。  
基礎体力の向上と自己の記録更新を目標に基礎トレーニングやフォームの改善などを中心にして練習を行った。

### 〈 受賞 〉

- 第60回記念全国聾学校陸上競技大会（いん さいたま）  
第7位入賞 種目 男子800m 高等部2年 松原 凌雅
- 第2回中国地区ろう学校陸上競技記録会  
第1位 種目 男子4×100mR  
高等部2年 松原 凌雅 菱川 玲  
高等部1年 堀江 蓮人 福本 匠
- 第1位 種目 男子800m 高等部2年 松原 凌雅  
第1位 種目 男子走幅跳 高等部2年 菱川 玲  
第2位 種目 男子800m 高等部1年 堀江 蓮人  
第3位 種目 男子走幅跳 高等部1年 堀江 蓮人



## 3 成果と課題

今年度よりできるだけ生徒が部活動に参加できるように週3日活動日を設定し、生徒たちが多くの時間練習に取り組めるようにした。また、できるだけ担当職員を配置し、練習日を確保できるように努めた。練習では、体幹を鍛えることや基本的な動きを高めることに重きを置き、いろいろなトレーニング方法を取り入れながら練習を積み重ねてきた。

全国聾学校陸上競技大会や全国障害者スポーツ大会に参加し、自己記録を更新した生徒が出たことは、とても喜ばしいことであった。

また、「第2回中国地区ろう学校陸上記録会」に陸上部の生徒全員が参加し、練習の成果を十分に発揮することができた。そして4名の生徒が3つの種目で入賞した。

このような大きな大会や記録会に参加することで、他校の生徒の頑張る姿に目を向けたり、会場の雰囲気を感じたりすることができ、一人一人にとってよい経験となった。さらに、全国や中国地区ろう学校内における自分のランクを知る機会にもなり、来年度の大会に向けて部員一人一人が新たな目標を持つ機会となった。



# 卓球部

## 1 目標

生徒の自主的・自発的な活動を通じて、規律ある行動や協調性を学び、継続した努力ができる態度を身につける。

## 2 主な活動内容

令和5年度の卓球部は10名（高等部 男子6名、中学部 男子3名、女子1名）で活動を行った。日々の練習に加えて、青翔開智中学校・高等学校卓球部との合同練習や、外部指導者による強化練習も行い、一人一人が競技力の向上をめざして活動に取り組んだ。

新型コロナウイルス感染防止の観点で、高等学校体育連盟や中学校体育連盟主催の大会への参加はなかったが、第73回中国地区ろう学校体育大会(鳥取大会)卓球競技に参加した。個人戦は、鯉口、瀧、板倉が3回戦まで進出した。男子団体戦は予選リーグで2位となり、決勝トーナメントに進出したが、初戦に岡山聾と対戦し敗退したため3位となった。上位に全国聾学校卓球大会の出場権を持たない学校が入ったため、繰り上げで第60回記念全国聾学校卓球大会に出場できることになった。全国聾学校卓球大会団体戦には、瀧、竹村、菱川が出場し、予選リーグで敗退したが、ハイレベルな試合を体感し、技術向上への意欲や課題意識を高める貴重な経験となった。

### <受賞>

第73回中国地区ろう学校体育大会卓球競技 男子団体 第3位

## 3 成果と課題

今年度も新型コロナウイルス感染防止対策を講じながら活動を進めた。練習時には換気、練習後には用具の消毒を行い、感染防止に対する努力を行って活動した。

初心者部員に対して上級生が丁寧に教えることで、技術の向上が図れただけでなく、部員相互のコミュニケーションを取りながら活動ができた。また、マシンを使った多球練習や外部指導者による指導を受け、生徒個々の課題に沿った練習に取り組むことができた。

部長が練習の流れを皆に伝えたり、練習後のミーティングに講評を述べたりして、イニシアティブを取ることができた。

その他、昨年度に続き、感染防止を鑑み、練習日や大会参加を極力絞ったが、来年度は積極的に大会に参加し、試合経験を積むことができるようにしていきたい。



# 写真部

## 1 目標

生徒の自主的・自発的な活動を通じて、規律ある行動や協調性を学び、継続した努力をしようとする態度を身につける。

## 2 主な活動内容

### (1) 部員

高等部 5名、中学部 3名

### (2) 活動内容

- 5月 9日 第27回春の作品発表会（とりぎん文化会館、鳥取城周辺） ※高等部5名参加  
8月 4日 生徒写真技術研修会（湊山公園周辺、鳥取県立米子西陵等学校） ※高等部2名参加  
10月25日 第32回鳥取県高等学校写真展（米子コンベンションセンター、植田写真美術館）  
※学校祭りハーサルのため不参加

### (3) コンテスト結果（2023年1月～12月）

瀧 雄太

- ・第67回 全国学芸サイエンスコンクール 12月 入選 「砂の大地」

藤田 陽瑠

- ・月刊キャパ 月例フォトコンテスト 5月 三席 「人生の階段」

谷口 悠真

- ・第29回 全国特別支援学校文化祭 1月 優秀賞 「水遊び」

板倉 昊大

- ・第45回 よみうり写真大賞 12月 佳作 「I Love You」

- ・第67回 全国学芸サイエンスコンクール 12月 入選 「小人の世界」

田中 優那

- ・第21回 鳥取県ジュニア県展 11月 入選 「仲良し」

### (4) 写真展

- 6月 鳥取県立人権広場ふらっとにて、写真展 6点  
8月 仁風閣にて、写真展 26点  
9月 とりぎん文化会館(第10回手話パフォーマンス甲子園)にて、写真展 5点  
2月 中電ふれあいホールにて、2023年鳥取豊学校写真部生徒写真展 32点

## 3 成果と課題

本年度は、新型コロナウイルスの感染症拡大状況による色々な制約が少しずつ無くなっていく中で、活動であり、ここ5年間の中でも、一番多い部員数であった。そして、鳥取砂丘や校外での撮影が可能になっていくに連れ、全体的に作品にも変化が見られるようになってきた。特に、中学部2名の新入部員の台頭により、部員それぞれが教え合ったり、競ったりするなどの相乗効果が少しずつ現れていることが大きかった。なお、部員数が増えてきたことにより、作品作りに使用するパソコンの台数に限りがあり、一人一人の作品作りに制約が出るといった課題が生じた。今後、この課題を部員や顧問と一緒に解決策を模索しながら、全員が楽しく活動できる写真部を目指したい。

# 茶道部

## 1 目標

規律ある行動や協調性を学び、継続して努力する態度を身につける。  
茶道のお点前の練習を通して日本文化に親しみ、おもてなしの心や礼儀作法を身につける。

## 2 主な活動内容

毎週火曜日に、山内先生の御指導の下、薄茶の点前、道具の置き合わせ等の練習を行っている。(写真は練習風景)

本年度部員は6名で(高等部5名、中学部1名)、前半は新型コロナウイルス感染拡大防止で密を避けることと、一人一人の実態に応じた稽古をするため、2グループに分かれて稽古を行った。入室時に手洗い・消毒・マスクの徹底は行ったが、きっちりと分けるのではなく、前半の生徒で残れる生徒は、後輩の指導をするといった柔軟な活動を行うことができた。



高3生3名が引退した後は、お手前を全部覚えることができるよう、チャリティー茶会や初釜を意識しながら積極的に活動をした。

### (1) 小堀遠州流チャリティー茶会

令和5年12月10日(日)に、ウクライナ人道危機の救援を目的として小堀遠州流チャリティー茶会があり、初めて高等部男子生徒1名が参加した。この茶会には、鳥取東高校、鳥取商業高校、岩美高校の生徒の参加もあり、同じ部活動をしている高校生同士の良い交流となった。



また、12月18日(月)日本赤十字鳥取支部にチャリティー茶会の収益金と募金を本校が代表して届けた。生徒は口上を堂々と述べ、支部の方々から感謝の言葉をいただいた。

### (2) 初釜

1月19日(金)、4年ぶりに初釜をすることができた。全員にお茶をふるまうことはできなかったが、日ごろの練習の成果を披露できた。幼稚部の参加は初めてで、幼児たちは高等部の生徒がお茶を上手に点てる様子を見て、とても喜んでいた。



## 3 成果と課題

今年度は、規制が少なくなり、今までの活動がほぼできるようになってきた。また、チャリティー茶会など他校との交流ができたことが一番の成果だった。学校祭の茶席は、1日開催の中で行うのは難しいと考えている。遠藤記念日の初釜は、生徒が日ごろの練習の成果を発表する場として今後とも大切にしていきたい。

### 3 ひまわり分校の取り組み

# (1) 年 間 行 事

令和5年度 年間行事計画

鳥取雙学校ひまわり分校

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1 土	月	土	土	火	金	日	水	金	月	木	金
2 日	火	日	日	水	土	月	木	土	火	金	土
3 月	水	月	月	木	日	火	金	日	水	木	土
4 火	木	火	火	金	月	水	土	月	木	金	土
5 水	金	水	水	土	火	木	金	火	月	水	木
6 木	土	木	木	日	水	金	土	月	火	水	木
7 金	日	金	金	月	火	土	日	火	水	木	金
8 土	月	土	土	火	金	日	月	金	火	水	木
9 日	火	日	日	水	土	月	木	土	火	金	土
10 月	水	月	月	木	火	水	金	日	月	土	日
11 火	木	火	火	金	月	水	土	月	木	金	土
12 水	金	水	水	土	火	木	日	火	月	水	木
13 木	土	木	木	日	水	金	月	水	火	土	日
14 金	日	金	金	月	土	火	日	木	水	金	土
15 土	月	土	土	火	日	月	金	火	月	土	日
16 日	火	日	日	水	土	火	日	木	水	金	土
17 月	水	月	月	木	火	水	金	火	月	土	日
18 火	木	火	火	金	月	土	日	木	水	金	土
19 水	金	水	水	土	火	木	金	火	月	土	日
20 木	土	木	木	日	水	金	月	水	火	土	日
21 金	日	火	火	月	土	火	日	木	水	金	土
22 土	月	土	土	火	日	月	金	火	月	土	日
23 日	火	日	日	水	土	火	日	木	水	金	土
24 月	水	月	月	木	火	水	金	火	月	土	日
25 火	木	火	火	金	月	土	日	木	水	金	土
26 水	金	水	水	土	火	木	金	火	月	土	日
27 木	土	木	木	日	水	金	月	水	火	土	日
28 金	日	火	火	月	土	火	日	木	水	金	土
29 土	月	月	月	火	日	月	金	火	月	土	日
30 日	火	火	火	水	土	火	日	木	水	金	土
31 月	水	月	月	木	火	水	金	火	月	土	日
授給その他	15(新入生14)	22	14	5	20	21	19(幼18)	16	16	19	15(修了生10)
	18(幼17)	21	13	5	20	20	※三季会合(原)木曜日 計画面(1回目) PTA専門部会 人権教育講演会	15	16(幼15)	19	12(8)
	運動会 予行練習	計画訪問(1回目)	PTA専門部会 人権教育講演会	PTA専門部会 人権教育講演会	健康教育参観日	健康教育参観日	※三季会合(原)木曜日 計画面(2回目) 親子遠足(幼)	玉術座敷教室	PTA専門部会 人権教育参観日 スキー(小5,6)	卒業修了式 卒業修了式 PTA専門部会 学校保健委員会	入学検閲後検査

※1学期69(68)

※2学期81

3学期50(45)

<p><b>職員</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>安全点検の日</li> <li>教育推進部会</li> <li>環境整備の日</li> <li>職員会議</li> <li>職員研修</li> <li>企画部会</li> <li>運営委員会</li> <li>衛生委員会</li> </ul>	<p><b>幼稚園</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>交流保育(原則木曜日)</li> <li>・学校間交流</li> <li>・併行通園</li> </ul>	<p><b>小学部</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>交流及び共同学習</li> <li>・居住地区交流</li> <li>・学校間交流</li> </ul>	<p><b>各学部</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>身体測定</li> <li>個人懇談</li> <li>学部会</li> <li>幼小保</li> <li>保護者手話学習会</li> <li>補聴器店来校</li> </ul>	<p>(鳥取県立特別支援学校学校則)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学年始 4/1~4/8</li> <li>夏季+冬季+体験的学習活動等休業日</li> <li>学年末 3/25~3/31</li> </ul>	<p>総授業日数 200日 (新入生199日・卒修生195)</p> <p>給食回数 190回</p> <p>&lt;夏季休業34日&gt; &lt;冬季休業18日&gt; &lt;体験的学習活動等休業日2日&gt; 計54日</p>
---	--	---	--	--	---

## (2) 各 分 掌

# 総務部

## 1 目標

学校内外の広報活動を推進し、本校の教育の理解と啓発を図る。

## 2 主な活動内容

### (1) 学校公開

年2回（5月・9月に3日間ずつ）の学校公開では、コロナ禍も落ち着き、保護者はもとより幼児児童が利用する福祉施設や教育関係機関、地域の方々など、たくさんの方々にはひまわり分校の教育実践を参観いただいた。また公開期間中には、学校説明会や講演会、難聴疑似体験や手話学習会を行い聴覚障がい教育の理解と啓発につながった。

### (2) 広報・啓発活動

各種刊行物や催し案内などを定期的に職員に回覧したり、手話ポスターやイベントポスター、各種行事での幼児児童の写真などを掲示したりした。また、今年度初めて地域の公民館祭に幼児児童の作品を展示させてもらい、広くひまわり分校のことを知っていただくよい機会となった。

### (3) とりろうだより・ぶんこうだよりの発行

「とりろうだより」は、鳥聾本校と連携しながら、学期ごとの行事や各学部の活動の様子を掲載して年3回発行した。保護者や関係諸機関に配布し、子どもたちの姿や聴覚障がい教育についてお知らせすることができた。また、「ぶんこうだより」を毎月発行して、各学部の様子や活躍を保護者に知らせるようにした。ホームページにも掲載し、外部への情報発信に努めた。

### (4) コミュニティ・スクール

今年度は年3回（6月・12月・2月）の学校運営協議会を実施した。子どもたちの様子や校内の施設見学後、協議や意見交換の中で、たくさんの提言をいただくことができた。

＜地域と連携した主な取組＞

- ・ 早朝や放課後の子ども教室での指導員
- ・ 幼稚部ひまわりタイムへのゲストティーチャー
- ・ 地域の公民館祭への作品出展
- ・ 地域の人権教育推進協議会だよりへの寄稿（R6. 3発行）
- ・ 交流及び共同学習（園・学校間交流、居住地校交流）等



#### (4) 危機管理等関連業務

校内運営において危機管理等に関する業務を行った。安心安全な学校運営をめざし、校内のみならず、関係機関と連携を図りながら進めた。

<主な活動内容>

- ・年度当初の防災計画策定や健康安全教育部と連携を図りながら各種避難訓練や研修の実施。
- ・近隣施設との連携－隣接する皆生養護学校、総合療育センターとの三施設連絡会や、地震・津波を想定した合同避難訓練の実施。
- ・不当要求行為等対応に関する研修。

### 3 成果と課題

本校と分校の連携については、共通フォルダ、両校の掲示板の活用等で情報の共有化をし、報告文書等の円滑な処理に努めた。「ひまわり分校の魅力」が地域や関係機関の方々にさらに伝わっていくように、ホームページ等に活動のねらいを含めた魅力的な記事をタイムリーに掲載していくことに努めていきたい。

また、学校運営協議会を通して、地域とともにある学校をめざし、地域や福祉、医療や教育など、関係機関と連携を図り、取組を進めていきたい。

# 教務部

## 1 目標

- (1) 各教科・各学部間の連絡調整を行い、学習活動や行事・儀式等が円滑に行えるようにする。
- (2) 各表簿や個別の教育支援計画、個別の指導計画等の適切な運用と管理を行う。

## 2 主な活動内容

### (1) 各表簿

出席簿・指導要録・通知表の作成を依頼し、点検、管理を行った。

### (2) 教育課程

学習指導要領を考慮した教育課程の編成を各学部で検討し、来年度の教育課程を決定した。

### (3) 行事予定

年間・月間の行事予定を作成して周知を図るとともに、日々の予定をホワイトボードで連絡した。  
来年度より保護者向けの年間及び月行事予定の配布に向けた書式の作成も検討した。

### (4) 教科用図書

今年度受領の児童用教科書の配布及び受領報告を行った。  
来年度使用予定の児童用教科書及び教師用教科書・指導書の申請と管理を行った。

### (5) 個別の指導計画

学習指導要領に合った指導計画となるよう様式の検討を行うと共に、評価の点検を行った。  
来年度の指導計画作成についても学部内で協議をして進めた。  
授業での評価と指導について、学習指導要領の考え方を職員に周知した。

### (6) 子どもを語る会

全校の幼児児童、教育相談乳幼児について資料作成の提案をし、共通理解を図る会を、4月中旬に開催した。

### (7) 職員会議

職員会議の年間日程、議題の確認及び調整、司会・記録の割振り、手話通訳者への資料事前送付等を行った。

### (8) センター研修

教育センター主催の基本研修・職務研修・専門研修の取りまとめを行い、受講手続きや受講者への連絡を行った。

### (9) 職員手話研修会

全国手話検定試験に向けて、職員の手話研修会を計画・実施した。鳥取県聴覚障害者協会から2名と本校職員7名が講師を務め、年間8回の研修会を行った。

### (10) 施設利用調整（皆生養護学校）

皆生養護学校の体育館使用について、年度初めに基本的な使用時間について確認するとともに、行事等で使用時間の変更がある場合に、教務主任同士で連絡を取り、日程調整を行った。

### (11) 生活時程

生活時程について、学習や保育活動のねらい、児童のよりよい学校生活に向けて、各学部で検討をしたものを全体で協議し、生活時程表を作成した。

### (12) 入学者募集及び選抜

来年度の幼稚部入学者募集に関して入学者募集委員会を開催した。来年度入学予定者がなく、計画及び準備のみを行い、今後入学予定者がいる場合に備えた。

### (13) 保護者案内

行事予定をもとに、参観日及び懇談等について保護者に連絡文書を配布した。

### (14) 統合型校務支援システム導入に向けて

統合型校務支援システムの検討会議に参加し、検討を行った。当初は令和7年度運用予定であったが、より良いシステムの運用に向けて、検討を続け、開始を延期することとなった。

### (15) 儀式

始業式、終業式、入学式、修了証書授与式について計画立案し、進行した。新型コロナウイルス感染症の落ち着きに伴い、昨年度までのリモート開催から3年ぶりの全職員参加とし、来賓の参加者も少しずつ増やす方向で依頼をした。

4. 11 (火) 始業式・着任式	12. 22 (金) 2学期終業式
4. 12 (水) 入学式	1. 10 (水) 3学期始業式
7. 21 (金) 1学期終業式	3. 13 (水) 修了証書授与式
8. 25 (金) 2学期始業式	3. 22 (金) 修了式・離任式

## 3 成果と課題

成果としては、前年度より引継ぎをしっかりとするとともに、見通しを持ちながら、準備、連絡調整等を行うことで、行事や学習活動等が円滑に進められたことが挙げられる。課題としては、教務部としての会ができなかったことで、来年度は教務部として運営をしていくことも必要と考える。

今年度は、新型コロナウイルス感染症に気をつけながらも、活動の制限を撤廃することで、コロナ前のように充実した交流や体験活動ができるようになった。今後も幼児児童の学びやの体験の充実に向けて、さらに検討や工夫をしていきたい。

# キャリア教育部

## 1 目標

- (1) 自己及び他者への関心を深め、コミュニケーション能力を高める。
- (2) 勤労を重んじ目標に向かって努力する態度を形成する。
- (3) 社会参加に必要な知識、技能、態度を身につける。
- (4) 自分の将来の姿をイメージしながら進路についての考えを深め、選択する力を身につける。

## 2 主な活動内容

### (1) 先輩に学ぶ (小学部)

社会で活躍されている先輩の話をおきくことを通して、将来に向けて考える土台づくりをすることを目的に、鳥取聾学校ひまわり分校中学部卒業生を招いて、児童と将来のことや夢のことなどについて話をきいたり、ふれあったりする会を実施した。

### (2) キャリア教育についての理解・啓発の推進

#### ① キャリア教育だよりの発行 (年4回発行)

第1号「きこえない・きこえにくい人を取り巻く現状」第2号「ひまわり分校の修了生・卒業生について」第3号「個別の教育支援計画について」第4号「先輩に学ぶ」を発行。今年度は子ども達の取組の様子や個別の教育支援計画についてだけでなく、保護者に子どもの進路や就学、今後の生活についても考えるきっかけとなるような内容を発信した。

#### ② キャリア教育掲示板

きこえない・きこえにくい先輩方の活躍や就労等をはじめ、デフリンピック、就労促進セミナー、手話パフォーマンス甲子園、手話通訳について等々掲示をして、最新の情報を周知できるように努めた。

#### ③ ケース会議

夏季休業中に各学部で、キャリア教育段階表をもとに幼児児童の現状や今後の課題等を話し合った。様々な視点で話し合うことができた。

#### ④ 保護者との懇談

2学期の懇談で、子ども達の進路や就労について話し合った。3学期も、個別の教育支援計画の評価や新年度の目標を考えることを通して、継続的に進路、将来について話し合った。

### (3) いじめ防止についての取組

いじめの未然防止と早期発見・対処のために、いじめ防止対策委員会を年5回開催した。また、小学部では毎月アンケートを実施し、情報収集に努めた。アンケートの結果から、スクールカウンセラーとの話し合いの場を持った方が良い事案もあり、アンケートをとることの重要性を確認することができた。また、昨年度からスクールソーシャルワーカーにも委員会のメンバーに入っただけ、幼児児童の様子について専門家の立場から助言等をいただいた。9月には、スクールソーシャルワーカーによる「生徒指導提要改訂について」のミニ研修会を実施し、子ども達への理解を

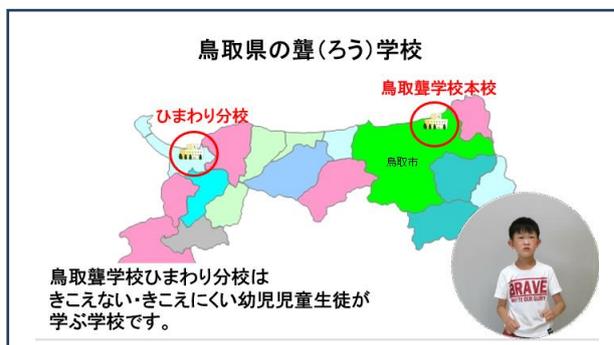
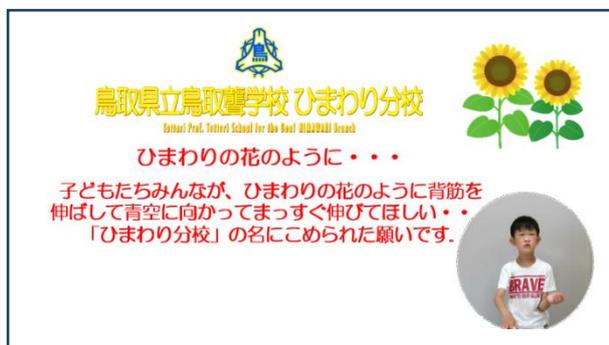


深めた。

#### (4) 就労促進セミナー

「西部地区特別支援学校就労促進セミナー」とは、特別支援学校生徒の働く姿や、雇用や職場定着に関する事例紹介を通して、生徒の働きたいという願いを企業の方に周知し、障がい者の理解啓発と就労促進につなげることを目的として行っている。今年度も新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、オンライン（YouTubeによる動画配信）となったが、聾学校としてのひまわり分校の概要や卒業生の就労の様子について動画を作成し、企業、学校関係者や保護者の方など多くの方に視聴をしていただいた。また、学校紹介を小学部児童が行ったことにより、児童の様子を発信することもできた。

さらに、今年度は企業向けの学校見学会（1日）を、9月の学校公開日に合わせ実施した。（参加者は1企業1名）

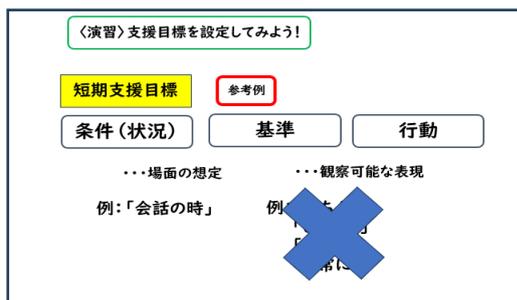
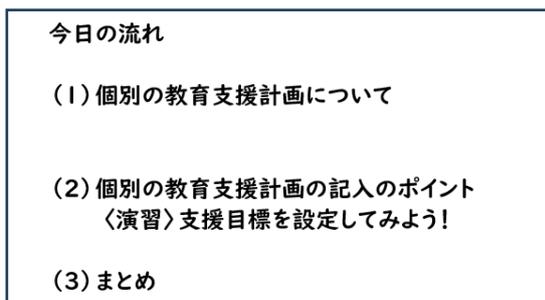


学校紹介動画より

#### (5) 個別の教育支援計画について

昨年度より新書式で進め、今年度は一部改善、見直しを行った。職員研修では、個別の教育支援計画の趣旨、目標の立て方や支援及び支援内容の考え方について確認や演習をした。3学期には来年度の作成に向けて本人や保護者の思いやニーズについての保護者アンケートを実施した。

今年度は、個別の教育支援計画を支援会議で活用することを周知し、活用が増えた。



職員研修パワーポイントより

### 3 成果と課題

保護者や職員にキャリア教育だよりや校内掲示板、就労促進セミナーでの動画配信などを通して、キャリア教育に関する啓発を進めることができた。また、個別の教育支援計画等をもとに子どものキャリア発達や将来について、そして、日々の取組について話し合うことができた。今年度は、保護者への取組が中心となってしまった。来年度は、キャリア発達段階表をもとに子どもにつけていく力を整理し明確にして実践していきたい。

# 教育研究・自立活動部

## 1 目標

- (1) 幼児児童の豊かな心情とたくましく生きる力を育てるために、職員の指導力の向上を図る。
- (2) 聴覚障がい教育を中心とする特別支援教育の専門性を高める。

## 2 主な活動内容

### (1) 教育研究・研修企画・推進

今年度は、「豊かな心情を育み、たくましく主体的に生きる子どもを育てる～自ら伝えたい気持ちとことばを育てる環境づくり～」をテーマに研究を行った。幼児児童一人一人の障がいの特性と発達状況からくる困難さを整理し、適切な目標設定と自立活動を基盤とした保育活動や各教科等での横断的な指導を行うことで、幼児児童の「もっと知りたい。」「もっと伝えたい。」という意欲が高まり、調和的発達をより促すことができるであろうと考え、上記の研究テーマを設定した。個々の実態や発達段階に応じて子ども一人一人のことばの力が高まるよう、昨年度まで取り組んできた「自立活動指導プログラム」を活用した指導実践を継続した。最早期教育である支援部で心とことばを「たがやし」、幼稚部で遊びや生活の中で心を満たしてことばの「種をまき」、小学部で身につけたことばを使って考え、表現する力を「育てていく」という一貫した教育を目指し、各学部で研究を進めた。また、「思考をくすぐる6つの活動」を取り入れた授業づくり、年2回の参観ウィーク、一人一研究授業等の授業実践を計画的に行い、学部を越えて幼児児童理解を深めながら、自立活動を基盤においた授業づくりについて研究を進めた。今年度の全体授業研究会は幼稚部が行い、信州大学特任教授の庄司和史先生にご指導・ご助言、ご講演をいただいた。職員研修として、夏季休業中に信州大学特任教授の庄司和史先生に、オンラインでご講演をいただいた。冬季休業中には、県外出張報告会とともに、人工内耳基礎研修を行い、教職員の専門性の維持と継承に努めた。また、基礎的環境整備の一つとして、職員の指導力向上のために、鳥聲スタンダード・ひまわりスタンダードの定期チェック（学期に1回）や、職員朝礼での「毎朝ワンポイント手話」を実施した。



【11月 幼稚部全体授業研究会】

【人工内耳基礎研修】

### (2) 研究会紹介・研究資料収集

他校での研修会、資料の紹介、季刊誌「聴覚障害」のとりまとめを行った。

### (3) 聴能

幼児児童の補聴器の管理、情報提供、聴力測定の実施、補聴器店との連携を行った。また、奇数月に聴能通信「みみだより」を発行し、校内外へ聴能に関する情報を発信した。

### (4) 自立活動

今年度も自立活動指導プログラムを活用し、自立活動の指導計画作成や指導の実際に活かすことが

できた。幼児児童一人一人について、自立活動指導プログラムを用いて、指導内容の達成状況をチェックすることで、個の強みや課題について把握し、適切な目標設定をすることができた。学部内で、幼児児童の目標設定や実践時の困り感や参考になった点、改善点などを随時意見交換したり、共通理解する機会を持ったりすることで、一貫性のある指導に活かすことができた。

### (5) 発達・心理検査

各学部で実施する検査を一覧にまとめたものを活用しながら、幼児児童の実態に応じて実施時期、検査内容について精査し、実施の手続きを行った。発音明瞭度検査については夏季休業中にグループごとに評価を行い、2学期以降の発音指導に活かした。

## 3 成果と課題

今年度は伝えたい気持ちを育てるためのことばやコミュニケーションに焦点を置き、授業研究会、学部会や日々の話し合いの中で、指導・支援のあり方について研究を深めた。このことにより、幼児児童の丁寧な実態把握がなされ、幼児児童一人一人に適切な目標を設定することができた。そして支援部では、保護者との安心感の中で子どもたちと心を通わせることのできる環境設定、幼稚部では、心が動く保育活動や環境設定の工夫、小学部では各教科等での話型やワークシート、補助ツールを活用した学習環境や生活環境の整備の取組がなされた。各学部の研究の取組により、幼児児童一人一人が自分の思いを自分なりのことばで生き生きと表現する姿が様々な場面で見られるようになってきた。また、一人一研究授業や全体研究会の実施、参観ウィーク、「鳥髯スタンダード」・「ひまわりスタンダード」の活用等により、職員一人一人が授業改善や環境整備に取り組み、指導力の向上につなげることができた。今後も、幼児児童の伝えたい気持ちを大切に、ことばやコミュニケーションの向上を図ることができるよう、実践を積み重ねていきたい。



【 支援部 】



【 幼稚部 】



【 小学部 】

# 健康安全教育部

## 1 目標

- (1) 健康保持、安全、防災に関する知識を身につけ、健康的で安全な生活を送るために必要なことが、自分なりにできる。(知識・技能)
- (2) 健康的で安全な生活を送るために必要なことに気づき、自分はどうすればよいかを考え、まわりの人とコミュニケーションを取りながら実践できる。(思考力・判断力・表現力等)
- (3) 学んだことをいかし、まわりの人と一緒に、より健康で安全な生活を送るために持続的に取り組むことができる。(主体的に学習に取り組む態度)

## 2 主な活動内容

### (1) 健康教育

#### ①「ひまわりピクス」

幼児児童の運動調整力、柔軟性の向上をめざして、県が推進しているワンミニッツ・エクササイズを参考にした「ひまわりピクス」を体育の学習を中心に継続して取り組んでいる。

#### ②健康教育参観日（9月26日）

健康に関する理解を深め、家庭への啓発を図ることをねらいとして参観日を開催した。放課後には教員と保護者を対象に、外部より講師を招いて性に関する指導についての講演会を実施した。

#### ③すっきりモーニング大作戦（11月13日～20日）

保護者や幼児児童自身が生活習慣への意識を高められるよう、基本的生活習慣の記録を行う期間を設定した。幼児児童が保護者と一緒に目標を立てて取り組むことで、家庭内での生活リズムや歯磨き等への意欲、関心を高めることができた。

### (2) 安全教育

#### ①交通安全教室

各学部に分かれ、安全な道路の歩き方について、学校周辺の道路を使って指導を行った。幼稚部では、道路の横断時の安全確認、横断の仕方等、教師と一緒に手順を確認しながら行った。小学部では、講話やDVDの視聴で交通ルールを確認した後、近くの国道を利用しての現地確認を行った。

#### ②安全点検

毎月1日を安全点検日とし、職員が各管理場所を点検した。修繕、改善すべきところは点検表にあげ、事務部と費用等を相談して対応した。点検結果を一覧表にまとめ、稟議して対応している。

### (3) 給食指導

#### ①給食試食会（9月26日）

保護者の学校給食への理解を促すために、給食試食会を開いた。幼児児童と一緒に給食を食べることで、給食の様子や献立、配膳等を見ていただく事ができた。家庭と学校の食事指導を比較し、考えていただく良い機会となった。届けられた保護者の感想等は、給食センターへ情報提供した。

#### ②学校給食週間の取り組み

食育の指導として、1月24日から1月30日まで「学校給食週間の取り組み」を行った。学校給食の歴史、地産地消に関する情報、食事のマナー等を廊下に掲示した。また、食に関する図

書の特設コーナーに置いた。日頃給食を提供して下さる米子市学校給食センター職員の方にお礼の手紙を書き、感謝する心を培う指導も行った。

#### (4) 防災関係

##### ①備蓄の整理、確認

災害時の避難対応のため食料等の校内備蓄、保管をしている。4月に水20と非常用乾パン等1食分を提出していただき、校内に保管、管理して年度末に返却している。他の防災グッズも含め、保管場所が適しているかどうかはまだ検討中である。

##### ②避難訓練

###### ア 火災避難訓練（5月10日）

火災発生に際して、幼児児童が避難経路を確認し、安全に避難できるように訓練すること、火災発生及び防災に対する認識・知識を高めることをねらい、5月に火災避難訓練を実施した。避難時における全体の動き、職員の役割分担を確かめた。



###### イ 洪水避難訓練（5月24日）

幼児児童の洪水災害に関する知識を深めるとともに適切な避難行動をとること、教職員は、幼児児童が安全に避難できるように適切な指示、支援ができることをねらいとして実施した。今年度は、隣接する皆生養護学校に避難し、体育館で指導講評を行った。本来であれば、校舎2階まで避難することを確認した。

###### ウ 不審者対応避難訓練（9月22日）

今年度は、中庭に侵入してきた不審者への対応訓練を行った。幼児への影響を考慮して職員のための訓練とした。不審者侵入に対する協力体制のあり方、情報共有手段の整備について話し合い警察官やスクールサポーターからも助言をいただいた。

###### エ 三施設合同避難訓練（10月3日）

隣接する、皆生養護学校、総合療育センターと合同で地震・津波を想定しての避難訓練を実施した。避難経路、避難場所、所要時間等を確認することができた。避難訓練の時間設定の都合で、引き渡し訓練を併せて実施することはできなかった。

#### (5) 環境整備

毎月第2水曜日午後4時から30分間、各部で行う環境整備の計画、分担を行った。校地内の除草作業、備品等の整理等、定期的な作業日を設定することで、内外の環境に職員の意識を向けることができるようになった。

#### (6) その他

○学校保健委員会を開催し、学校における健康の問題を協議し、健康づくりを推進するため、学校医、学校歯科医、学校薬剤師、PTAと連携を図る機会としている。多面的な健康づくりを進めていくために、今後も密な連携を図っていきたい。

### 3 成果と課題

今年度は、危機管理や防災対策について、訓練等を通して見直しを図ってきた。避難訓練や外部専門家を招いた指導講評等を通して、職員の防災や安全に対する意識も高まったと感じている。有事の際によりスムーズな対応ができるよう、防災計画や避難訓練計画案を作成していきたい。

### (3) 各 学 部

# 幼稚部

## ～にこにこ・のびのび・わくわく～

### 1 めざす子ども像

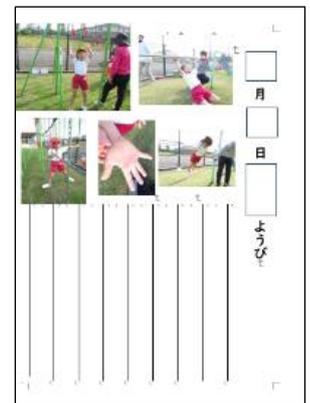
- 自分の考えや気持ちをことばにして伝える子
- 自分でできることが増え、友達のために動く子
- 運動やリズム遊びで、楽しんで体を動かす子

### 2 主な活動内容

#### (1) 学び合う子プロジェクト

自分でできることの大切さをより理解するために、あらゆる場面において、丁寧なかかわりを意識して取り組んだ。友達の様子、教師の見本を手がかりに、自分から積極的に朝の準備や片付けなどに取り組むことができるようになった。体験したことや身の回りにあるものの言語化を通し、自分の考えや気持ちをことばにして伝えることができるようになったことで、友達への意識も高まり、様々な場面において、友達の様子を気にかける幼児も見られた。

ことばの力を高めるために、写真日記を活用したやりとりで活動したことの言語化を図ってきた。また、うきうきタイムでの絵日記の発表を取り入れ、発表後には質問タイムを設けた。友達の発表をしっかりと聞いて質問したり、応答したりすることで、幼児の伝えたい気持ちが高まってきている。適切な言語環境の設定を行い、掲示していることばカードを幼児が自ら読む姿が多く見られた。



#### (2) かなえる子プロジェクト

毎日、絵本の時間を設定し、絵本の読みきかせを行っている。週に2日、図書館司書が入ったり、年齢に応じたグループに分けたりしながら、毎日、続けてきた。季節に合った絵本、昔話の絵本など様々なジャンルの絵本を選び、絵本の世界に親しんでいる。絵本の読みきかせで読んだ絵本を借りる幼児も見られ、絵本に関する興味・関心は高まっている。

きこえない成人の方を講師に迎え、絵本の読みきかせと交流活動を行う「ひまわりタイム」を年に7回実施した。絵本の読みきかせでは、豊かな手話表現と表情で幼児が絵本の世界に引き込まれ、絵本を楽しんだ。とんとん相撲やボウリング対決などをして、きこえない成人の方との関わりを楽しむ様子が見られた。

多人数の集団やきこえる園児との関わりを通して、社会性やコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を目的として、学校間交流と居住地園交流を行っている。学校間交流では、4年ぶりに対面で皆生養護学校幼稚部、良善幼稚園と行った。初めて経験することで緊張する様子が見られたが、時間が経つうちに笑顔が見られるようになった。幼児全員が居住地園などにも籍がある併行通園を行い、幼児の実態に応じて回数等を調整しながら、保育園やこども園に通った。回数を重ねるごとに友達に声をかけて遊んだり、活動に積極的に参加したりする様子が見られるようになった。



### (3) やりぬく子プロジェクト

からだづくりに使う道具を手に取りやすいように、体を使って遊べるボールやフリスビーを入れるかごを遊戯室内に常時設置した。自由あそびの時にボールを手にとって、投げたり、蹴ったりする様子が多く見られた。おはようタイムで実施しているリズム遊びでは、様々な動きができるように毎回種類を変えた。様々な動きを取り入れた運動を継続していくことで、体の使い方が上手になってきている。運動では、サーキット、縄跳び、ボール運動など幅広い内容をスモールステップで取り組んだ。少しずつできるようになってきた喜びを感じながら、子どもたちはしっかり体を動かしていた。運動での活動を自由あそびで再現するなど、体を動かす姿がよく見られた。



### (4) オリジナルプロジェクト

友達同士の関わりややりとりを活発にするために、ペアでできる活動を組み込んだ。「ひまわりをつくろう」では、ペアになった幼児同士で、花、種、茎、葉をどのように作るかを話し合った。そして、様々な素材や道具を活用して、素敵なひまわりを作り上げた。「ひまわりランドをつくろう」では、作りたいものが同じだった幼児はペアを組んで、飛行機や鬼太郎列車を作った。どんな形にするのかなどと話し合いながら、制作を進めた。意見がぶつかることもあったが、話し合っ、折り合いをつけながら制作する様子が見られた。また、ペアでの活動をきっかけに、普段の生活においても、「何をして遊ぶ?」「一緒に鬼ごっこをしよう。」などとやりとりをしながら、一緒に遊ぶ様子が見られた。



## 3 成果と課題

今年度の幼稚部は、3歳児2名、4歳児2名、5歳児2名の計6名で活動してきた。きこえの状態や獲得語彙等、実態は様々であるが、個々の発達段階に合わせた指導・支援を幼稚部全体で共通理解を図りながら進めてきた。写真日記で活動の言語化をより深めるための時間を確保し、写真をもとにやりとりをして、幼児の発言を文章にする活動を進めてきた。その結果、幼児の伝えたい気持ちが高まり、やりとりの内容も深まった。また、なかよしあそびで幼児同士が関わり合いながら活動してきたことで、様々な場面で幼児同士がやりとりをしながら遊ぶ姿がよく見られるようになった。獲得語彙数も増えてきており、様々な場面で幼児同士がお互いを認め、伝え合いながら元気に遊んでいる。

今年度も子どもたちの安心・安全を考えながら保育活動を行ってきた。来年度は、幼児在籍者数が減る予定である。より活動内容の精選を行っていくとともに、教室環境の整備や工夫、絵本に親しむ活動や体験をもとにした遊びの充実を図り、幼児の思考力や表現力を高める活動をより一層充実させていきたい。また、幼児期における発達の重要性を意識して、幼児の言語力・コミュニケーション力、非認知的能力の向上のために、あらゆる資源を活用していきたい。



## 小学部

### ～みんなで チャレンジ！ やってみよう！～

#### 1 めざす子ども像

- 学び合う子…めあてを意識して学習に取り組む子
- かなえる子…任された係や当番をやりとげて、はたらく子
- やりぬく子…体力づくりで、楽しんで体を動かす子



#### 2 主な活動内容

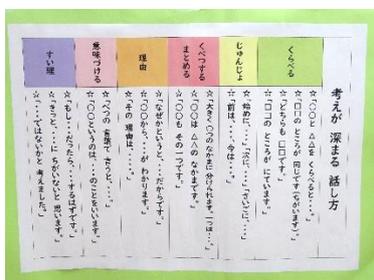
##### (1) 学び合う子プロジェクト

- ①板書の工夫、電子黒板の活用、学びの足跡としての教室掲示等の視覚的な支援をする。

授業におけるめあての提示やめあてを意識した振り返りに取り組むことにより、児童が見通しを持って積極的に学習に取り組む姿が増えている。写真や動画、具体物などをできるだけ活用し、視覚的支援に心がけている。また、「考えが深まる話し方」として掲示している「順序」「理由」などの話型を、発問や振り返りに活用することに努めた。

- ②観察や諸検査等を活用した的確な実態把握を行う。

個別の教育支援計画やキャリア教育段階表等をもとに、学部全体で一人一人の実態把握を行った。毎週の学部会で児童の様子や保護者からの情報等を共通理解し、学部全体で児童の指導にあたっている。また、聴力測定、発音明瞭度検査、J.coss 日本語文法検査、絵画語彙発達検査なども行い、実態把握と学習指導に活かしている。



##### (2) かなえる子プロジェクト

- ①よいところについて教師が意図的に紹介したり、児童がを見つけ、伝え合う場を設定したりする。

児童の作品や、行事に向けてのめあてや振り返りを書いたシート等は、廊下に掲示してお互いに見合うことができるようにしている。図画工作については、「鑑賞カード」を作成し、友達の作品を鑑賞して感じたことを書き、作品の横に掲示する取組も行った。

- ②児童それぞれの役割を設定したり、係・当番活動の様子等を掲示したりする。

児童の当番活動として、メダカのえさやり当番、小学生新聞の掲示当番を設定した。新聞の当番は1ヶ月間で、毎朝、「小学生新聞を取りに来ました。入ってもいいですか。」と職員室に新聞を取りに来る。1年生が初めて当番をする際には、4年生が、「明日から当番だよ。」と知らせ、やり方を教える姿も見られた。



### (3) やりぬく子プロジェクト

○体力づくりの時間を確保したり、体力づくりのバリエーションを工夫したりする。

毎週月曜日と水曜日の昼休憩後の10分間、体力づくりを行っている。ラジオ体操やダンス、なわとび、ストレッチなど、月ごとに継続して行うことで、身体の動かし方や使い方に向上が見られる。また、休憩時間には教師も一緒に身体を動かす遊びをしている。真冬でも汗だくになって遊ぶ児童の姿が見られた。



### (4) オリジナルプロジェクト

○読書・読みきかせの時間を確保する。

各学年、週に1時間「図書の日」を設け、読書や読みきかせを行っている。図書館司書が少し長い物語の本を少しずつ継続して読みきかせていくことで、イメージを膨らませながら楽しんで本の世界に入っていく児童の姿が見られた。自分の好きな本を集中して読みふけったり、本の内容について教師と語り合ったりする様子から、学校図書館が児童にとって豊かな心を育む場となっていることを感じる。



## 3 成果と課題

今年度の小学部は、1年生1名、2年生2名、4年生2名の計5名で、学習やさまざまな活動に取り組んできた。今年度は新型コロナウイルス感染症の位置付けが5類に移行されたことにより、JRや路線バスなどの公共交通機関を使っの校外学習や、学校間交流、居住地校交流における集団での学びなど、校外の人々と接する学習の機会も多く設定することができた。また、手話言語条例制定10周年記念事業の『手話のWAダンス』に参加したり、『とっとり手話まつり in 米子』の舞台上で和太鼓を披露したりするなど、積極的に発信していくことにも取り組んできた。一つ一つの学習活動が児童に自信と達成感をもたらし、心と身体の成長につながっている。

今後も教職員同士で連携を密に取り、丁寧に共通理解を図りながら児童の実態に即した適切な教育を行っていきたい。



# 支援部

伝えよう！～自分から「ことば」をパス！「思い」をシュート!!～

## 1 めざすセンター的機能

- (1) 乳幼児教育相談 親子のかかわりを支援し、家庭と連携してきこえとことばの育ちを促す。
- (2) 通級指導・教育相談 地域で学ぶ子ども達が自己理解や自己認識を高められるよう指導や支援を行う。
- (3) 関係機関との連携 担任や保護者ニーズに合わせて、情報提供し支援を行う。また、関係機関と連携を取り情報交換や啓発を行う。

## 2 主な活動内容（令和6年1月現在）

### (1) 乳幼児教育相談 乳幼児教室ひよこぐみ（活動回数 1～4回／月）

年齢	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計
人数	2名	1名	1名	1名	1名	2名	8名

活動内容の様子

《きこえ・補聴器について》



補聴器装用



補聴器点検



聴力測定

《音あそび》



《息舌声あそび》



《あそびを通したやりとり》



### (2) 通級による指導 ※すべて巡回、必要に応じて指導時の参観や懇談を設定した。

	巡回	市町村名（学年）
きこえ	1名	日吉津村1名（1）
ことば	4名	大山町1名（1）
		伯耆町2名（1、3）
		南部町1名（1）
合計	5名	

### (3) 教育相談 きこえ：不定期 ことば：1～2回／月

- きこえ・・・一側性難聴児の相談や医療機関から紹介2名 昨年度から継続7名
- ことば・・・発音不明瞭・ことばの発達 保護者、園、学校、保健師より相談依頼

	3歳児	5歳児	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	計
きこえ		1名			1名	1名	3名	2名	1名	9名
ことば	2名	1名	1名	1名	1名					6名

#### (4) 関係機関との連携

##### ①他機関との連携

- 医師（耳鼻科）・言語聴覚士、県西部市町村の保健師・障がい福祉課、教育委員会、総合療育センター、補聴器店等と直接あるいは電話やメールにて情報共有
- 通級担当者会 西部地区1回/月 3地区（米子市以外）1回/月
- 島根・鳥取聾学校支援部と医大との勉強会 6月、12月、2月（予定）
- 西部地区小・中学校難聴特別支援学級担任の情報交換会 8月  
ちよこつと情報交換会（1時間程度） 5月、6月、10月、12月、2月 [オンライン]
- 難聴幼児児童生徒理解の職員研修（保育園、小・中学校） 4月、6月
- 西部地区特別支援教育連絡会（年3回）特別支援学校コーディネーター及びLD等専門員との情報交換会

##### ②本校との連携

- 難聴児の早期支援に関わる情報交換会 保健師、障がい福祉課との情報交換や啓発。  
のべ33名（東部7名・中部11名・西部15名）参加 9月、10月

##### ③啓発活動

- 聴覚障がい基礎研修 5回 校外よりのべ29名参加  
内容：難聴理解、自立活動、発音指導、学習支援、当事者の話、補聴器・人工内耳
- 難聴疑似体験および難聴についての研修・学習  
対象：難聴の幼児児童生徒の在籍園・在籍校の職員および児童、サービス施設の職員  
内容：難聴理解、学習支援、補聴器・人工内耳
- 学校公開<5月3日間 77名来校 9月3日間 20名来校>  
内容：学校説明、保育・授業公開、研修会（きこえについて）、難聴疑似体験、手話学習会
- 小学生対象「わくわく交流会」西部地域のきこえにくい子ども達・保護者の交流会  
<8月3日 小学生7名参加>
- 保護者手話学習会 月に1～2回



### 3 成果と課題

今年度も支援部のめざす姿として、“伝えよう！～自分から「ことば」をパス！「思い」をシュート!!～”として、安心感のある環境と関係づくりを土台に、「伝える」ことばを育む取組を目指した。それぞれの子どもや家庭の事情もあり、年齢も発達も様々な子どもたちであるが、教育相談や通級での個別対応という良さを活かして一人一人に寄り添い、一緒に楽しみながら、少しずつことばを育てていくことができた。また、様々な関係機関と連携をとることで、行事や研修、相談、指導、啓発活動において幅広く支援内容を考えることができた。今後も継続して連携し、ほっとできる環境や信頼関係を大切にしながら、支援活動の充実を図っていきたい。

## あとがき

1年間の教育活動のまとめとして『龍文』ができあがりました。この『龍文』の作成の目的は、日々の教育活動を記録し振り返ると同時に、まとめる作業を通して整理考察し、これからの教育活動に役立てることです。

約3年続いたコロナ禍も徐々に落ち着き、感染症法の位置付けが5類に移行した昨年5月以降は、教育現場でもいろいろな制限が緩和されました。本校・分校でも、コロナ禍以前の教育活動を思い起こしつつ、模索・工夫を重ねたこの3年間の取組の成果を活かして、日々教育実践を重ねてきました。以前と全く同じに戻すのではなく、一つ一つの行事や活動の意義やねらいを明確にして、新たなスタートを切った1年だったかと思います。

今年度のチーム鳥龔・チームひまわりの合言葉は「共育」です。学校教育目標の実現に向けて、子ども同士が学び合い、伝え合い、かかわり合って育つこと、教職員が子どもの姿から学び育つこと、教職員同士でかかわり合い認め合いながら学び育つことを意識して、様々な教育活動に取り組んできました。この1年間の子どもたち、そして私たち教職員の学びと育ちを記録をにまとめました。この実践収録『龍文』をもとにさらに改善・工夫を重ねていきたいと考えています。

令和6年度は本校が創立114年目、そしてひまわり分校は開校30周年の節目の年を迎えます。この『龍文』を皆様にご覧いただき、御意見や御指導をいただけると幸いです。そして、皆様からの御意見や御指導を今後活かしながら、本校とひまわり分校が一丸となり、龔教育の推進に努めていきます。

鳥取龔学校ひまわり分校 教頭 松井 志織